

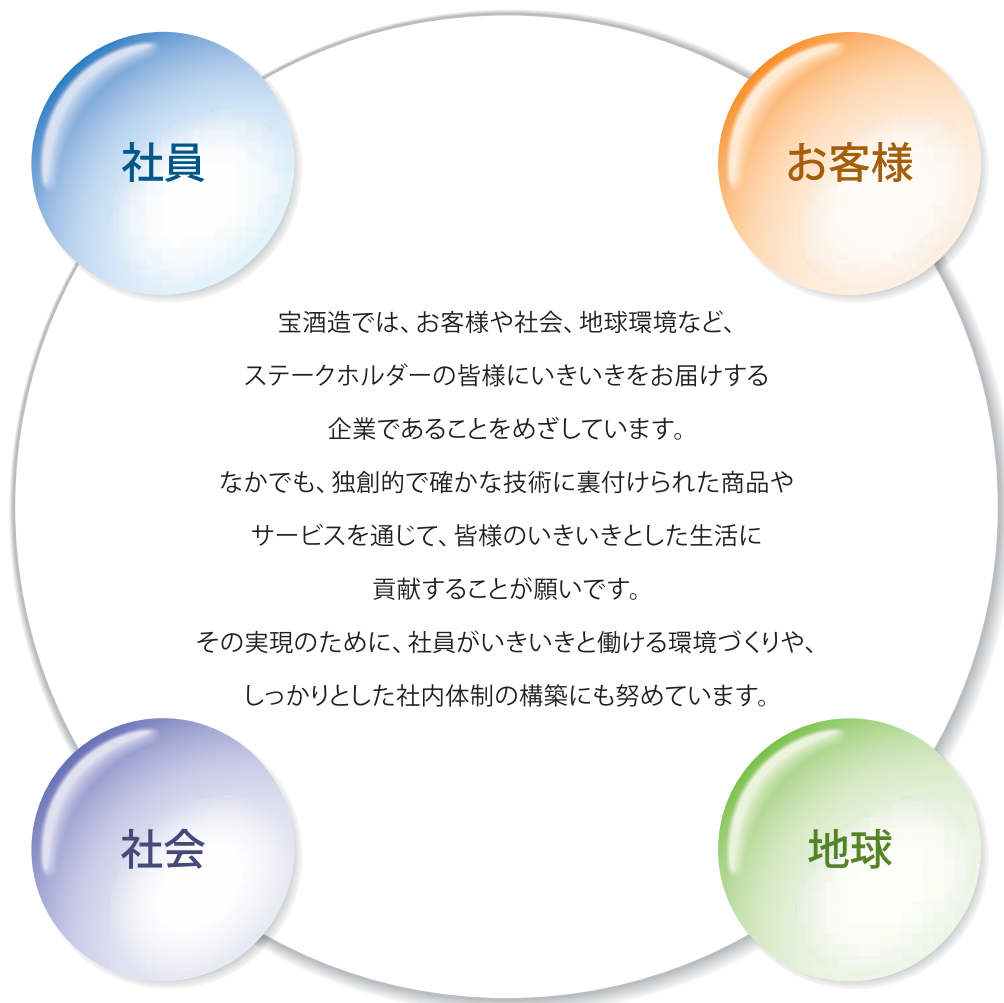
皆様の「いきいき」は私たちの「いきいき」

# 緑字企業報告書

CSR Report 2010



宝酒造株式会社



## ■編集方針

「緑字企業報告書 2010」は、宝酒造のCSR(企業の社会的責任)に関する取り組みを、ステークホルダー(利害関係者)の皆様にはわかりやすく誠実に報告することをめざして発行しています。


- 対象組織:宝酒造株式会社単体の活動やデータを中心に報告しています。ただし、一部TaKaRaグループ企業の活動やデータを含みます。グループ企業を含むデータ部分については企業名を記載しています。

- 対象期間:2009年4月1日～2010年3月31日  
※上記の期間以外は年度を記載しています。



- 参考にしたガイドライン:環境省「環境報告ガイドライン 2007年版」、GRI\*「持続可能性報告のガイドライン 2006」を参考に作成しています。  
※GRI (Global Reporting Initiative):環境面だけでなく社会、経済面も含めた報告書の世界的なガイドラインを作成している国際団体。

- 発行時期:2010年9月  
(前回2009年9月、次回2011年8月予定)

## ■詳細情報はホームページに掲載しています

本報告書にマークを記載している情報につきましては、下記のアドレスからすべてご覧いただけます。また、本報告書の内容はホームページでも公開しており、最新版だけでなく過去の報告書もご覧いただけます。

[http://www.takarashuzo.co.jp/  
environment/greenpdf/pdf2010.htm](http://www.takarashuzo.co.jp/environment/greenpdf/pdf2010.htm)

-  1～10・・・工場別報告などの詳細資料
-  A～I・・・IR情報などの参照ページ

## ■財務情報について

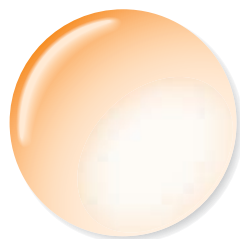
財務情報の詳細につきましては、宝ホールディングス株式会社のアニュアルレポートをご覧ください。なお、宝ホールディングスのホームページ(<http://www.takara.co.jp/>)ではアニュアルレポートだけでなく、決算短信、有価証券報告書などの情報もご覧いただけます。

-  A:IR情報



## 目次

編集方針	01
トップメッセージ	03
企業概要	05
事業紹介	07
〈特集〉	
安全・安心への取り組み	09
生物多様性保全への取り組み	12



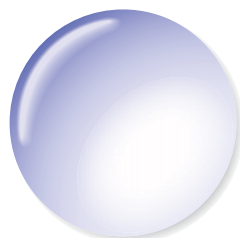
### お客様の「いきいき」のために

お客様へ安全・安心をお届けします。	15
お客様との対話を大切にします。	16
お客様の健康を考えます。	17



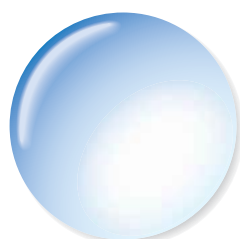
### 地球の「いきいき」のために

環境活動を支える仕組みを整えます。	18
「緑字決算」を公表します。	19
環境目標の達成状況を報告します。	21
空容器の問題解決に取り組みます。	22



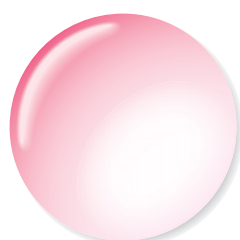
### 社会の「いきいき」のために

次世代に自然の大切さを伝えます。	23
よりよい社会づくりをめざします。	25
宝グループ各社の取り組みを紹介します。	27



### 社員の「いきいき」のために

人財育成・能力開発に取り組みます。	28
働きやすい環境づくりに取り組みます。	29
仕事と家庭の両立を考えます。	31



### 信頼される企業であるために

社内の体制を整えます。	32
-------------	----

宝酒造のあゆみと社会・環境活動の歴史	35
第三者意見・まとめ	37



# 皆様の「いきいき」を 実現する企業をめざして

宝酒造のマザービジネスである酒づくりは、穀物という自然の恵みをもとに、微生物という自然の働きによって造り出されます。私どもは豊かな水ときれいな空気といった自然環境があるおかげでビジネスをおこなうことができています。そのため、当社の企業精神には古くから自然環境に配慮する気持ちが受け継がれており、その気持ちを「自然と社会と人間との調和」という言葉として掲げた企業理念が制定されたのは四半世紀を遡る1985年(昭和60年)のことであります。

当社の社会貢献活動も、自然を大切にすることから始まっています。1984年(昭和59年)に始まったカムバック・サーモンキャンペーンでサケを川に戻す市民運動を支援したのを皮切りに各地の運動を支援、1985年(昭和60年)には公益信託TaKaRaハーモニストファンドを設立して地域での自然保護活動を継続的に支援しています。

また当社が事業を展開する上で避けて通ることができない空容器問題にも積極的に取り組み、「4R活動」として、一升びんなどの古くからのリユースシステムの維持に努めながら、新たな環境配慮型商品の開発も進めています。

企業の社会的責任とは、事業活動を通じて社会

の一員として、社会に貢献していくことがすべての基本になると考えております。当社の事業で申し上げるなら、消費者の皆様が求める、高品質でおいしい商品を開発・生産し、提供することです。それによって、当社が行動規準で掲げている「消費者のいきいき」が実現できると考えております。そのためには、商品の企画段階から、原料調達、製造、物流を経て消費者の皆様が召し上がるまでのすべての段階で確実な品質管理ができる体制を築き、また高めていくことが必要ですので、グループ全体をあげて取り組んでおります。

昨今、IT化や交通の発展によって、情報や人の移動がますます激しくなっております。その中で日本の食文化が海外で受け入れられる可能性が高いと考え、当社でもさまざまな海外事業をおこなっていますが、それら地域でも同様に「お客様のいきいき」実現に取り組んでいきます。

この報告書では、さまざまなステークホルダー(利害関係者)を想定し、それぞれのステークホルダーごとに社会的活動をまとめています。この報告書を通じて当社の考え方と活動をご理解いただき、またご意見を承ることができれば幸いです。



## 企業理念

---

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて  
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。

## 行動規準

---

消費者のいきいきは、私のいきいき —すべての行動は消費者の視点からスタートします—

1. パートナーと協力し、自ら率先して仕事の質を高めます。
2. いつも「なぜ？」と問いかけ、変革をすすめます。
3. 自信と誇りにあふれるプロをめざし、スキルアップに努めます。
4. ユニークな発想で、摩擦を恐れず議論します。
5. 情報感度を磨き、目標に向かって迅速にチャレンジします。
6. 自己の言動に責任をもち、法・社会倫理を守り、自然との共生に取り組みます。



宝酒造株式会社 取締役社長

大宮 久

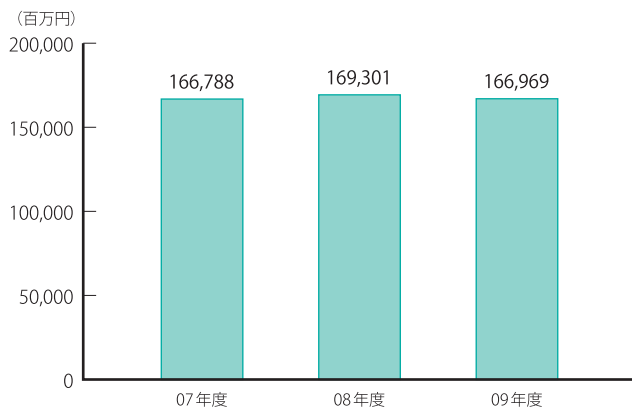
# 宝酒造株式会社 概要

宝酒造株式会社は、持株会社である宝ホールディングス株式会社の傘下にあリ、酒類・調味料・酒精事業等を展開しています。

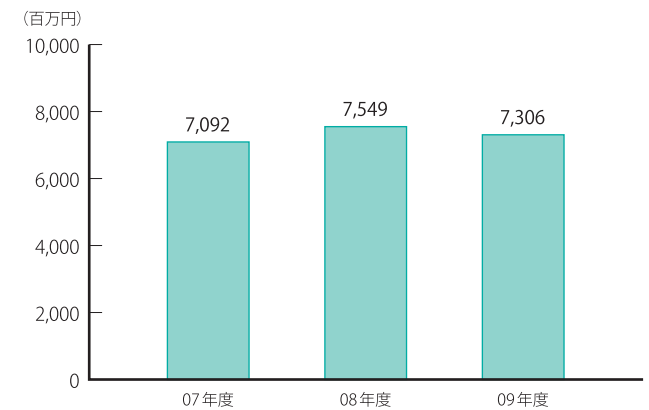
商号 宝酒造株式会社（英文名：TAKARA SHUZO CO.,LTD.）  
 代表者 取締役社長 大宮 久  
 設立年月日 2002年4月1日（持株会社体制移行による）  
 資本金 1,000百万円  
 本店所在地 京都市伏見区竹中町609番地  
 本社事務所 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地  
 決算期 毎年3月31日  
 主な事業 酒類、調味料、酒精の製造・販売

事務所 東京事務所（東京）  
 支社 北海道支社（札幌）・東北支社（仙台）・首都圏支社（東京）・関信越支社（さいたま）・東海支社（名古屋）・京滋北陸支社（京都）・西日本支社（大阪）・九州支社（福岡）  
 工場 松戸工場（松戸）・楠工場（四日市）・伏見工場（京都）・白壁蔵（神戸）・黒壁蔵（高鍋）・島原工場（島原）  
 物流センター 東日本物流センター（松戸）・西日本物流センター（京田辺）

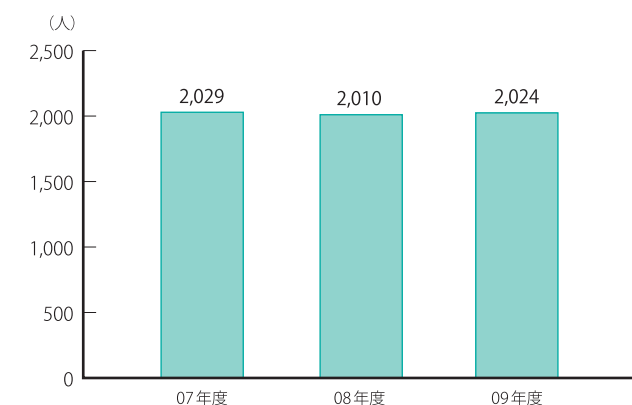
●売上高（宝酒造グループ）



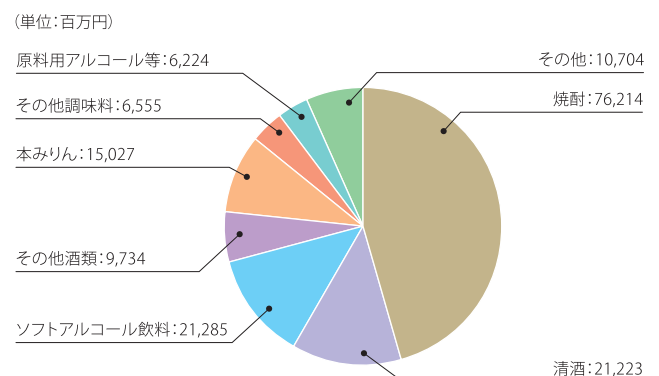
●経常利益（宝酒造グループ）



●社員数（宝酒造グループ）※3月31日現在



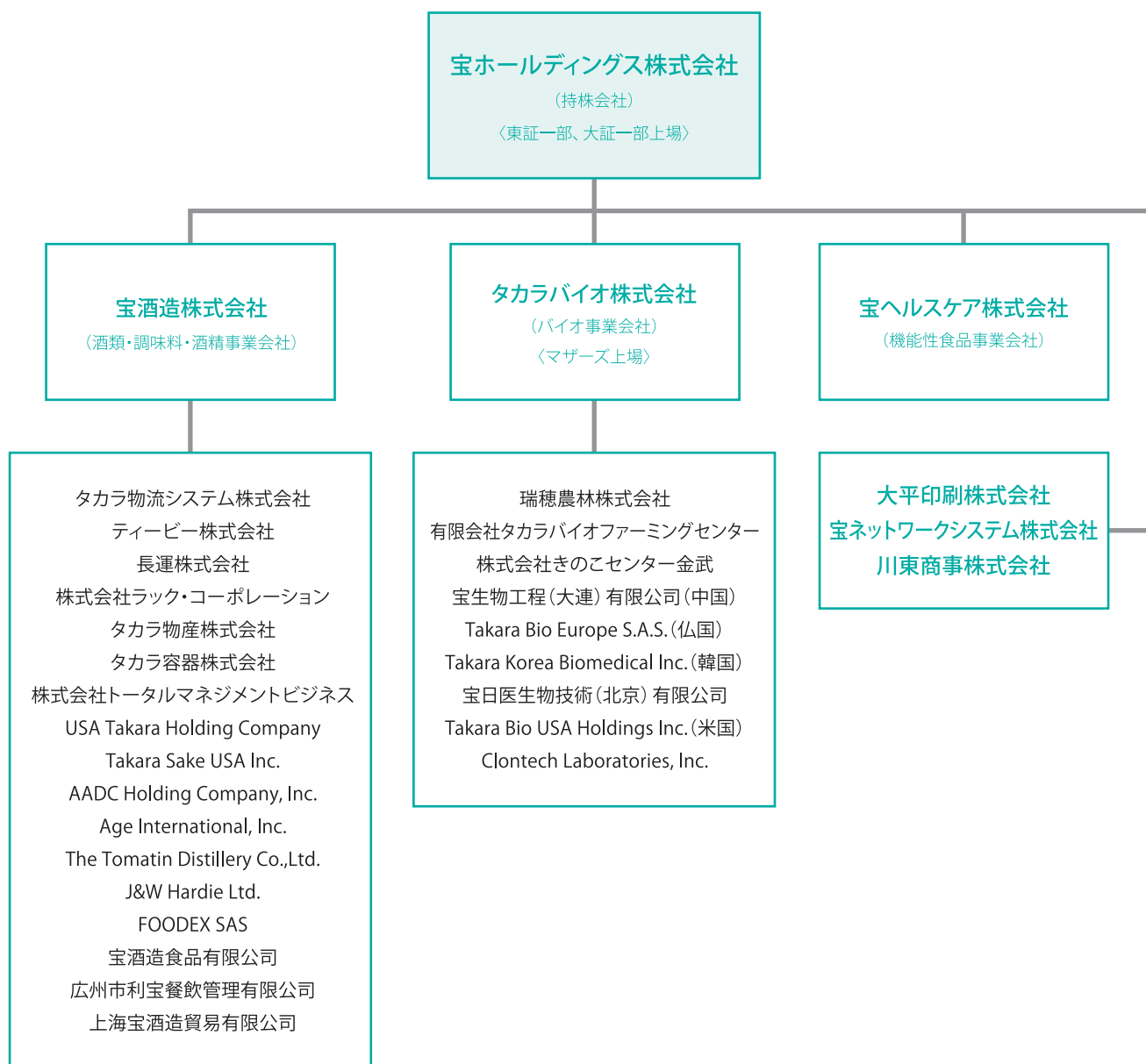
●2009年度カテゴリー別売上高（宝酒造グループ）



# 宝ホールディングス株式会社 概要

商号	宝ホールディングス株式会社(英文名:TAKARA HOLDINGS INC.)
代表者	取締役社長 大宮 久
設立年月日	大正14年9月6日
資本金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
決算期	毎年3月31日
事業内容	持株会社
上場市場	東京証券取引所第一部、大阪証券取引所第一部

## ●宝ホールディングスグループ企業の構成図





## 事業紹介

創業以来、伝統を守りながら、  
時代に合った新しい「おいしさ」を  
お届けしています。

### ■焼酎

長年培ってきた独自の蒸留技術や貯蔵技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場の発展に貢献してきました。甲類焼酎では、伝統と安心の甲類焼酎 No.1 ブランド“宝焼酎”をはじめ、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の宝焼酎“極上<宝焼酎>”、発売から30年以上のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”など、品質で差別化されたブランドによりトップシェアを堅持しています。また、本格焼酎市場においても、芋100%にこだわった“全量芋焼酎「一刻者(いっこもん)」”、麦本来の香りと味わいを追求した“本格麦焼酎「知心剣(しらしんけん)」”など、さまざまな原料において独自の技術による品質にこだわった商品を発売・育成しています。



### ■清酒

松竹梅は、「よろこびの清酒」として、慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。2001年には「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求するため、伝統的な手造りの原理を再現した最新鋭の設備と人の手で行う酒造りの両方を併せもった松竹梅白壁蔵を完成させました。ここでは“松竹梅「白壁蔵」<生酏純米>”などの特定名称酒を製造しています。また、晩酌市場では二段酵母仕込みにより「コクがあってすっきり辛口」の“松竹梅「天」”が多くのお客様からご支持をいただいています。業務用市場においては“松竹梅「豪快」”が、「爛で冴える辛口」として好評です。これからも松竹梅は造りや原材料にこだわりお客様に満足していただける高品質で個性的な商品を提案していきます。



### ■ソフトアルコール飲料

1984年に日本初の缶入りチューハイとして衝撃的なデビューを飾った“タカラ can チューハイ”は、時代をとらえた商品として、その後の缶チューハイ市場をリードし、また厳選された「焼酎」「果汁」「水」と確かな技術に裏づけられたこだわりの品質は、今も多くのお客様からの高いご支持をいただいています。また下町の大衆酒場で愛される辛口チューハイの味わいを追求した“TaKaRa「焼酎ハイボール」”、“ストレート混濁果汁”を使用し、果汁のおいしさに徹底的にこだわった“タカラCAN チューハイ「直搾り」”や、糖類不使用で果汁50%の“おいしいチューハイ”など、お客様のさまざまな嗜好にお応えできるこだわりの商品を開発、育成していきます。



## ■輸入酒

30余年にわたり、長年お客様の高いご支持をいただいている信頼のブランド“紹興酒「塔牌(とうはい)」”は、こだわりの製法による深い味わいと馥郁とした香り、さらに万全の品質管理によって日本の中国酒市場をリードしてきました。また、シングルバレルバーボンの“ブラントン”、スコッチウイスキーの“アンティークアリー”、オランダのリキュール“グリーン・バナナ”、中国の“桂花陳酒”など、世界各地から選りすぐりのブランドを取り揃えています。今後も、お客様それぞれの嗜好や飲用シーンにふさわしい、世界の高品質で価値あるお酒をご提案していきます。



## ■調味料(家庭用・加工業務用)

「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けてきた“タカラ本みりん”や、素材の生臭みを消し、料理に深いコクとうまみを与える“タカラ「料理のための清酒」”など、料理をおいしく、食卓を豊かにするさまざまな酒類調味料をご提案しています。また、加工・業務用市場に向けては、お惣菜や加工食品などに適した酒類調味料やだし調味料、醗酵調味料などの食品調味料を取り揃えるとともに、食品分析や調理効果分析、アルコールの調理効果研究、レシピ開発などお客様とともにさまざまな課題解決に取り組んでいます。



## ■酒精事業

連続式蒸留機によって原料用アルコールを製造し、全国の清酒、焼酎、リキュールメーカーへ販売を行っています。また、お客様のニーズに応じて清酒製造に欠かせない酵母や酵素などの関連商品をご提供し、パートナーシップを深めています。清酒造りの原点にかかわって業界の発展に寄与し、日本の文化である清酒を守っていききたい。常にそんなこだわりを持って取り組んでいます。一方で、味噌などの食品や医薬品、化粧品などの原料として使用される工業用アルコールの製造・販売にも注力しています。



## ■海外事業

おいしくヘルシーな食事として日本食が注目を浴びグローバル化されるのに伴って、清酒やみりんも広く浸透してきており、現在欧米やアジアを中心に世界40カ国以上の国々で清酒松竹梅、タカラみりんをはじめとする宝製品が親しまれています。さらに欧州では各種日本食食材の輸入販売事業を始めるなど、日本の食文化を世界中に広めていくための取り組みを速めています。またスコッチウイスキー、バーボンウイスキーの製造・販売も行っており、一層グローバルに事業を展開しています。





安全・安心への取り組み

# 松竹梅「白壁蔵」〈生酴純米〉 ができるまで

宝酒造白壁蔵では、昔ながらの手造りの技と最新のテクノロジーを融合した酒造りをおこなっており、清酒業界最高峰のコンクールである全国新酒鑑評会で7年連続金賞を受賞するなど、その品質には高い評価をいただいています。ここでは、松竹梅「白壁蔵」〈生酴純米〉の製造工程を通して、品質にこだわり、安全・安心な商品造りへの取り組みをご紹介します。



## 原料調達

「白壁蔵」〈生酴純米〉の原料は、米と米麹と水。品質と安全性を重視し、厳選した国産米を使用しています。「白壁蔵」の酒造りの第一歩は、良質の酒米と水の見極めから始まります。

## 検査

原料米は、受入毎に外観、重さ、水分等をチェックしています。また、酒造用水（宮水）は五感を使った官能チェックはもちろん、食品衛生法等に基準のある危険成分を分析して水質の安全を確認して使用しています。



原料  
調達

検査

精米

洗米・  
浸漬

蒸きよう・  
放冷

麴造り

### 精米

酒造りの妨げになるタンパク質、脂質、灰分などが含まれる玄米の表層部や胚芽を取り除く工程です。白壁蔵では、精米中に米が割れるのを抑え、酒造りに理想的な高品質の精米を行っています。



### 洗米・浸漬

精米した米を水で洗った後、水に漬け、米に水を吸わせる工程です。米を傷つけず、糠をきれいに取り除いた後、蒸米に適した水分になるよう厳密にコントロールしています。

### 蒸きよう・放冷

浸漬後、水切りした米を蒸し、その後、用途に適した温度まで冷ます工程です。白米を蒸す連続蒸米機は、昔ながらの「和釜」の原理を再現しました。蒸された米は、直ちに放冷機に入れられ、掛米用、麴米用に適した温度まで冷まされます。



### 麴造り

麴室に引き込んだ蒸米に種麴を撒布し麴菌を生育させる酒造りのなかで最も重要な工程です。造り手たちは自分の手で麴を触り、香りを嗅ぎ、口に含んで味わいを確かめつつ、少しずつ麴菌の生育を進めていきます。



## 松竹梅「白壁蔵」〈生酴純米〉について


松竹梅「白壁蔵」〈生酴純米〉は、江戸時代から続く伝統的な製法である生酴造りで醸した純米酒です。

生酴造りとは、酵母の増殖に適した環境を微生物の働きを巧みに利用してつくりだす伝統技術です。時間と労力がかかりますが、白壁蔵がもつ現代の技術と伝統の技とが融合することによって、芯のしっかりした、奥行きのある、懐深い味わいを生み出します。

松竹梅「白壁蔵」〈生酴純米〉は、米の旨みを引き出した、まろやかでやわらかい口あたりと、冷やしておいしい中味が特長で、食の和洋に関わらず食事と一緒に楽しみいただけます。

ラベル正面には、ブランド名である「松・竹・梅」をイメージしたデザインを配し、食卓でも手軽にお楽しみいただけるよう、640mlサイズには開けやすいコルク栓タイプのキャップを採用しました。オリジナルボトルの形状が描く曲線により、味わいのやわらかさを表現しています。

松竹梅「白壁蔵」〈生酴純米〉は日本酒文化を海外にも広めていくため、ヨーロッパやアジアを中心に世界の国々でも発売をしています。

 B:松竹梅



## ボトリング

充填室(写真右上)はクリーンルームになっており、室内の気圧を高く設定(陽圧化)し、外部からの虫、チリやホコリなどが入り込まないように厳密に管理されています。ここはゾーニングの規定により、特別清浄区に指定されており、専用のクリーンウェア(防塵服)やマスクを着用、エアシャワー(写真右下)を浴びてチリやホコリなどを除去し、床の粘着マットで靴底の汚れを落としてから入室します。



## 検びん

専門の検査員が、ボトリング時及び箱詰め前にびんの不良や異物がないか、ラベルやキャップの状態に問題がないか、一つひとつ厳しくチェックします。

酒  
母  
造  
り

酴  
仕  
込

上  
槽

貯  
蔵

精  
製  
ろ  
過

ボ  
ト  
リ  
ン  
グ

検  
び  
ん

### しゅ ぽ 酒母造り

酒母は、発酵に必要な酵母を純粋に大量に増殖させたもので、お酒の味わいを決める重要な工程のひとつです。

#### て も と ●手酴

仕込んだ麴、蒸米、水が均一に混ざるように、丹念にかき混ぜます。

#### も と す ●酴摺り

山卸とも言い、半切り桶に仕込んだ麴、蒸米を櫓棒で摺り潰します。(右写真)

#### も と よ ●酴寄せ

酴摺りが終わった半切り桶の中身を、ひとつのタンクにまとめます。



### もろ み 酴仕込

酒母と麴、蒸米、仕込水を加えて仕込み、酒を醸す工程です。仕込み用の発酵タンクは、全体を均一に温度管理します。櫓入れをするための攪拌機は、全体が均一に混ざり、かつ米がつぶれないという性能にこだわっています。



### じょう そう 上槽(搾り)

酴を搾る圧搾機は、上槽から酒粕取り、そして洗浄までのすべてを自動で行います。やさしく段階的に圧力をかけて酒を搾ります。



GOOD  
DESIGN  
2009

## グッドデザイン賞受賞

松竹梅「白壁蔵」〈生酏純米〉640mlは、2009年グッドデザイン賞（Gマーク）を受賞しました。

グッドデザイン賞は、(財)日本産業デザイン振興会が主催する、日本で唯一の総合的なデザイン評価・推奨制度で、世界有数の歴史と実施規模を誇っています。今回の受賞では、「伝統の技と現代の技術の融合」という白壁蔵のコンセプト、「オンテーブルで食事とともに楽しむ」という飲用シーンに配慮したデザインが評価されました。



2009年度グッドデザイン賞表彰式



## 出荷

各工程での厳しい品質検査に合格した松竹梅「白壁蔵」〈生酏純米〉が出荷されます。製造ライン・ボトルングした日時・出荷日時などの製品情報はバーコードで管理しています。製造履歴を管理することで鮮度のよい商品をお届けする体制を整えています。

## 検査

ボトルング後の最終検査は、より厳しく綿密に行います。アルコール度数の測定、成分分析のほか、訓練を受けた検査員が官能検査を行って微妙な味わいや香りを確認し、商品の品質、安全を確認します。



検  
査

出  
荷

お  
客  
様  
の  
も  
と  
へ

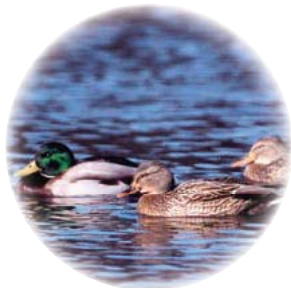


## 〈生酏純米〉を楽しむ会

松竹梅「白壁蔵」〈生酏純米〉のまろやかでやわらかい味わいを実際にお客さまに感じていただく場として、全国各地の飲食店のご協力のもと、「〈生酏純米〉を楽しむ会」を開催しています。会では、さまざまな料理とマッチする松竹梅「白壁蔵」〈生酏純米〉の特徴を活かし、フレンチ、イタリアンなどの料理の食中酒として冷やしてワイングラスで提供するなど、これまでの清酒の枠組みを超えた新たな可能性を訴求しています。



# 生物多様性保全への取り組み 25年目を迎えた TaKaRaハーモニストファンド



宝酒造は、穀物や水、微生物など自然の恵みを受けて事業活動を行っています。このため、企業理念にも「自然との調和」を謳い、生物の多様性を保全する自然環境保護活動に積極的に取り組んできました。

1979年にスタートしたカムバックサーモンキャンペーンをはじめ、1985年に設立した公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」、日本の松を守ろうキャンペーン、北海道ほたる計画、長野の宝を守ろうキャンペーン(ライチョウ保護)など、30年以上にわたり様々な自然保護活動に取り組んできました。

ここでは、これらの活動の中で、設立から25年目を迎える「TaKaRaハーモニストファンド」にスポットをあて紹介します。



## 公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」

全国には、自然環境保全の活動や研究に地道に取り組む団体や個人の方々が多数おられます。宝酒造(現在の宝ホールディングス)は、1985年の創立60周年を機に公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。2009年には、第1回からの助成先件数は延べ260件、助成金累計額は1億2,523万9,000円になりました。

2009年度は、「中海における水生植物群落再生のための実験研究」を通して高等水生植物中心の生態系への回復をめざす中海水鳥国際交流基金財団や「市民参加型干潟調査手法の普及と調査の実践」をすすめるNPO法人日本国際湿地保全連合など10件が選出されました。



## ●2009年度「TaKaRaハーモニストファンド」助成先一覧

	助成先団体・個人	地域	テーマ
研究の部	NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク	北海道	北海道・下サロベツ原野における自然再生に向けた泥炭採掘跡地状況調査
	世界遺産白神山地ブナ林モニタリング調査会	青森県	白神山地ブナ林の森林構造及び森林動態調査研究
	中海水鳥国際交流基金財団	鳥取県	中海における水生植物群落再生のための実験研究
	諸澤崇裕(個人)	茨城県	霞ヶ浦に生息するタナゴ類の季節移動の解明
	森本元(個人)	山梨県・静岡県	高山帯での劇的な環境変化への高山性鳥類の反応と繁殖生態に関する研究
活動の部	気仙沼大島観光協会	宮城県	小田の浜海水浴場「アクア・ピュア大作戦」
	NPO法人 中池見ねっと	福井県	希少な湿性植物の育成域拡大に関する実践活動
	NPO法人 日本国際湿地保全連合	愛知県・三重県	市民参加型干潟調査手法の普及と調査の実践
	NPO法人 内之浦湾を良くする会	和歌山県	海を育て漁場の宝庫に(海の草原づくり)
	指宿地区自然保護ボランティア協議会	鹿児島県	知林ヶ島イラストマップ作成





# つづけなければ、自然はつづ

生物多様性の保全など自然環境を守る研究や活動に、ゴールはありません。

25年目を迎えた TaKaRa ハーモニストファンドですが、これもひとつの通過点。これからも自然を守る研究や活動を支援していきます。

ここでは、これまでに日本全国に広がった助成先の中から、その一部を紹介しています。



アユモドキの観察会

## 助成先の声 01

### 2003年 瓜生川周辺水田地帯の淡水魚類(特にアユモドキ)の研究

代表 阿部 司 様  
瀬戸自然史研究会

瀬戸自然史研究会では、国の天然記念物・アユモドキを中心に、さまざまな生き物が生息できる自然環境を保全するための調査・研究を行っています。

かつてアユモドキは岡山や京都、大阪などにも生息していましたが、今では岡山県の一部と琵琶湖・淀川水系に分布するのみで、環境省の絶滅危惧種にも指定されています。これまでの研究で、アユモドキは川と水田を回遊し、田植え時期に水を張った田んぼの周りで産卵し、また元の川に戻っていくことが分かっています。また、TaKaRa ハーモニストファンドの助成金を活用し、岡山県吉井川水系における生態系を調べた結果、アユモドキが棲む川は他の様々な生き物が生息する多様性の高い環境であることが分かりました。

私たちににとって助成金をいただけることは大変名誉なことで、身の引き締まる思いと同時に大きな励みになっており、これからも環境保護活動をされている方々と情報交換しながら、幅広く自然の保全に取り組んでいきたいと考えています。

#### 岡山

- 1987年 カブトガニ保護調査
- 1989年 アユモドキの水田による自然産卵増殖
- 2003年 瓜生川周辺水田地帯の淡水魚類(特にアユモドキ)の研究

#### 広島

- 1995年 芦田川水系のスイゲンゼニタナゴ保護活動
- 2008年 ミヤジマトンボ生息地の復活研究

#### 鳥取

- 1987年 大山の一木一石運動
- 2009年 中海の水生植物群落再生の研究

#### 島根

- 2002年 宍道湖・中海甲殻類の多様性の研究

#### 山口

- 2006年 放流ヒメダカによる野生メダカの遺伝子汚染研究

#### 福岡

- 2005年 津屋崎入江のカブトガニ産卵調査と汽水域の生物調査

#### 大分

- 2004年 ベッコウトンボの幼虫飼養・増殖の活動

#### 熊本

- 2005年 阿蘇花野再生プロジェクト

#### 宮崎

- 2004年 日向灘海岸を考えるサミット

#### 鹿児島

- 1990年 屋久島、永田、田舎浜のウミガメ産卵生態調査
- 1991年 南西諸島のアリ相：生物多様性の維持(沖縄含む)
- 1995年 大隅半島の希少なトンボの現況調査

#### 沖縄

- 1986年 河川渓流性昆虫、特にヤゴ類の生態研究
- 1992年 サンゴ群集の復元と自然教育への活用
- 2007年 クメジマボタルが生息する川の保全

#### 静岡

- 1994-95年 タヌキノシヨクダイ保護の基礎研究

#### 愛知

- 2001年 河川敷におけるホンダヌキの生態把握

#### 岐阜

- 1990年 アジメドジョウの生態研究

#### 三重

- 1988-89年 ハリヨとネコギギの分布と生態の研究
- 2008年 ヒヌマイトトンボの保護・保全活動

#### 大阪

- 1989-91年 ブナ林の現状と更新の研究
- 2006年 雑種性帰化タンポポの遺伝的多様性研究
- 2007年 イタセンパラの寿命に関する研究

#### 京都

- 1986-87年 アユモドキの生息研究
- 1986-87年 オオセンチコガネの生態研究
- 2002年 亀岡のアユモドキ繁殖地の調査

#### 兵庫

- 1996年 播磨地方のため池の絶滅危惧水生植物の現況と保全

#### 滋賀

- 1988-89年 山門湿原の自然環境保全研究
- 1996-97年 ボテジャコに住む自然環境回帰活動
- 2007年 水田地帯の魚類相の変遷と保全の研究

#### 奈良

- 1994年 春日山原始林の水生昆虫減少の研究

#### 和歌山

- 1990-91年 熊野の自然保護活動
- 1993年 南紀州の海岸貝類相の変化の研究

#### 愛媛

- 1988年 宇和海の生物群集保全研究

#### 香川

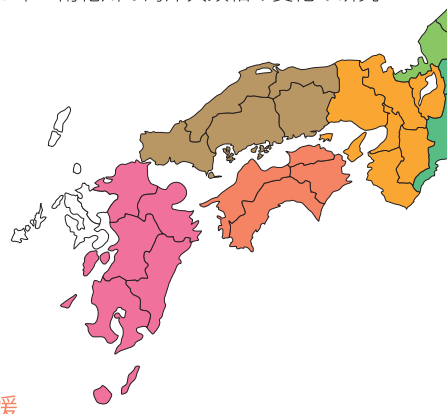
- 2000-01年 生物相の基礎的研究

#### 徳島

- 2000年 吉野川河口干潟の保護活動

#### 高知

- 1998年 四万十川産アカメの保護育成



# かない。

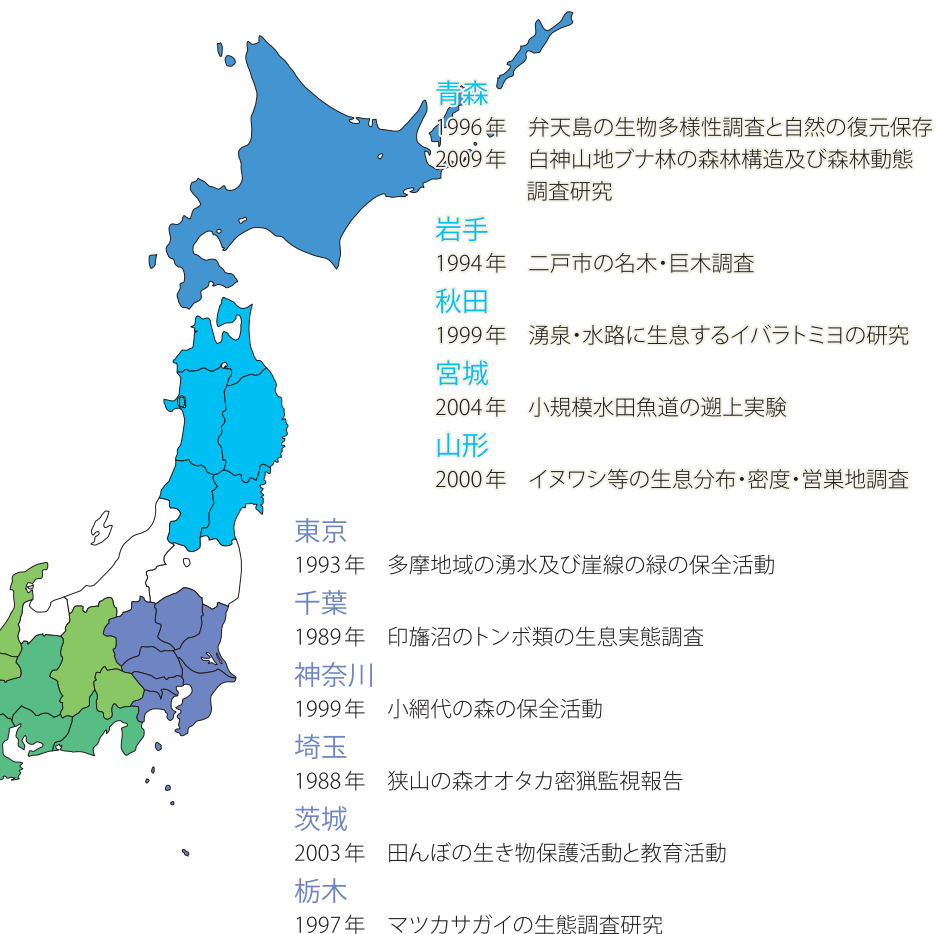


## 複数県での活動

- 1996年 国内におけるイエズメの分布拡張研究
- 2001年 日本で産卵するアカウミガメの餌場の探索
- 2005年 ハマグリ資源の遺伝的攪乱状況解明

## 北海道

- 1986年 阿寒湖マリモの保護活動
- 1997年 樽前山山麓冷温帯性落葉樹林昆虫群集の生物多様性研究
- 2002年 移入サケ科魚類の現状と在来魚種への影響
- 2003年 斜里川河川環境保全、イトウの産卵環境解明と保全
- 2006年 キウシト湿原の保全・再生事業



## 山梨

- 2001年 湧水池および水源林の保全

## 長野

- 1992-93年 絶滅危惧植物の調査研究
- 2007年 水草と絶滅危惧種の保護と自然界への復元研究

## 石川

- 1990年 巨樹の会の活動

## 福井

- 2004年 アベサンショウウオの新規森林生息地の探索
- 2009年 希少な湿性植物の育成域拡大の実践活動

## 助成先の声 02

### 2001年 日本で産卵する アカウミガメの餌場の探索

事務局長 水野康次郎 様  
特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会

特定非営利活動法人 日本ウミガメ協議会では、絶滅が危惧されるアカウミガメの効果的な保護対策が提示できるよう生態の調査・研究や啓発活動、また子どもたちを対象に環境イベントを催すなど教育活動などを行っています。

1950年以降急激に減少している北太平洋のアカウミガメですが、その生態はあまり知られておらず、近年の調査により、日本沿岸とメキシコ沖の間を回遊するとともに、産卵地が唯一日本の砂浜であることが分かりました。

協議会では、アカウミガメにとって貴重な日本の砂浜と海の環境保全を目指し、全国の産卵分布を明らかにするとともに、漁業者の方々や海辺に暮らす人たちと連携しながら詳細な調査を行っています。またTaKaRaハーモニストファンドの助成金を活用し、アカウミガメの食性や餌場探索を行っています。こうした地道な取り組みを通し効果的なアカウミガメの保護対策に役立つと同時に、すべての生き物が共存できる環境づくりにつながると確信しています。



ウミガメ孵化の調査

お客様の  
「いきいき」の  
ために

# お客様へ安全・安心をお届けします。

商品企画から製造・出荷にいたるまでの確かな品質管理体制のもと、  
お客様に安全で安心していただける商品をお届けできるよう努めています。

## 商品の表示に関するさまざまな取り組み

### 原材料・栄養成分表示

当社では、商品の設計・開発ステップの終了を受け、設計審査会議を開いて商品の品質、安全性、適法性に加えラベル表示について事前審査を実施します。ラベルの記載内容に関しては、法基準への適合性はもちろん、嘘や大げさ、紛らわしい記載や分かり難い表現がないことも確認した上で商品ラベルを作成しています。

清酒、乙類焼酎、みりんやチューハイの各商品については、従来から原材料表示を実施しており、また、お客様からカロリーのお問い合わせを多くいただくチューハイについては、栄養成分表示も実施しています。

また甲類焼酎についても、2007年に日本蒸留酒酒造組合の「焼酎甲類の表示に関する自主基準」が定められたことを契機として、業界の自主基準で定められた原材料表示の他に自主的に栄養成分表示も実施するなど、お客様に適正で分かりやすく商品情報を提供できるよう努めています。



原材料・  
栄養成分

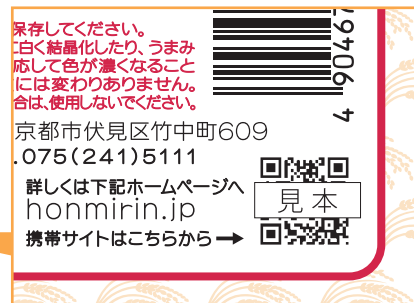
キャップ 原材料:サトウキビ糖蜜、大麦、トウモロコシ アルコール分:25%  
栄養成分表示(100mlあたり) エネルギー 139kcal、たんぱく質0g、脂質0g、糖質0g、食物繊維0g、ナトリウム0mg

原材料・栄養成分表示の例

### 携帯向けホームページの拡充

2009年6月には携帯電話向けホームページを大幅に拡充しました。これにより、手軽に、どこでも商品情報や料理レシピなどをご覧いただけるようになりました。また携帯電話のカメラ機能で読み込むだけでホームページにアクセスできる2次元コードを商品ラベルや新聞・雑誌広告などに掲載して、より利便性を高めています。

モバイルホームページアドレス: <http://takarashuzo.mjmk.jp/>



2次元コード掲載例

### 紹興酒における取り組み

宝酒造では、“塔のマーク”で親しまれている紹興酒「塔牌」を30余年にわたり中国から輸入しています。中国浙江省の紹興で厳格な基準に基づき醸造される老酒だけが紹興酒と呼ばれ、その中でも「塔牌」は中国政府から「中華人民共和国原産地域産品」認定マークを発行されている確かな品質の製品です。さらに当社では、製品の輸入ロットごとに自社にて成分分析や農薬等の一斉分析を実施しています。使用する原料(もち米、小麦)については、品質証明書による確認だけでなく、原料サンプルを入手し、日本国内の検査機関にて分析を行い、安全性を確認しています。また、当社の技術者が定期的に中国の生産工場を訪問し、品質の維持・向上に関する協議を継続して、確かな品質の紹興酒を安定的にお届けできるよう努めています。



紹興酒「塔牌」花彫(陳五年)600ml



お客様の  
「いきいき」の  
ために

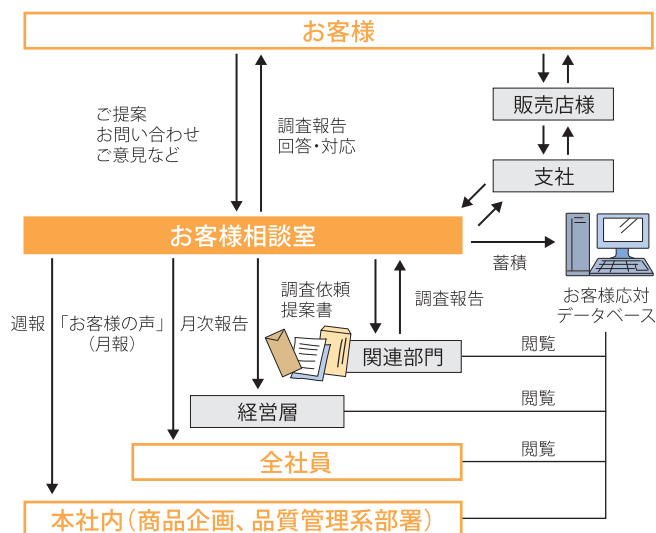
# お客様との対話を大切にします。

お客様によりよい商品やサービスをお届けし、皆様の信頼とご期待にお応えできる企業であるために、お客様とのコミュニケーションを大切にします。

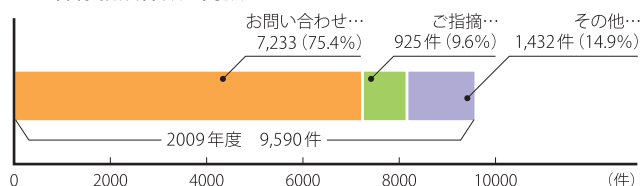
## お客様相談室の役割と仕組み

お客様相談室では年間、約1万件のお客様の声（ご意見、お問い合わせ）をいただきます。私たちは、その一つひとつに真摯に耳を傾け、より良い製品を提供できるように、お客様と宝酒造との懸け橋となるべく努めています。宝酒造では、「消費者のいきいきは、私のいきいき」を行動規準にしています。このため、お客様の声は、個人情報保護した上で、すべてデータベースに蓄積し、全社員に公開しています。“誠実・迅速・確実”をモットーに、お客様にベストな対応ができるよう、今後も努めてまいります。

### ●お客様対応の流れ



### ●お客様相談件数と内訳



## VOICE



お客様相談室の担当者の声  
向井 聡子

私は、「お客様からの声」＝「宝ファンからの声」と受けとめ、電話、手紙、Eメールを通して、日々、お声に耳を傾けています。

清酒、焼酎、チューハイ、調味料等、多岐にわたる商品知識の向上はもとより、「どれだけお客様目線で、お声に耳を傾け、共感できるのか」が最も大切なことだと感じています。厳しいお声をいただくこともあります。時には「ありがとう」の一言に支えられ、やりがいや達成感を感じています。今後も宝酒造の窓口としてベストな対応ができるように日々勉強し、また、商品開発やさまざまな改善に活かせるように、「お客様の声」を関係部署に届けていきたいと思っています。

## お客様へのさまざまな情報提供

宝酒造ホームページ内に「お客様相談室」を開設し、お客様からよくいただくご質問とその回答を掲載しています。また、梅酒をはじめとするホームメイドリキュールの作り方や、調味料を使ったレシピの検索など、お客様のお役に立つ情報もホームページに多数掲載しています。

D:お客様相談室

## お客様の声を反映した改良事例

### 〈改善事例1〉カップ酒のアルミキャップを改良

カップ酒のアルミキャップが開けづらいというご指摘が数件ありました。例えば、プルトップ部分を持って引っ張り上げる際に、その向きによっては、キャップの一部が鋭角にちぎれてしまうことがありました。このため、引っ張り上げる向きにかかわらず、簡単に開けやすい形式に改善しました。



改良前



改良後

### 〈改善事例2〉ホワイトタカラ「果実酒の季節」の表示を改良

お客様からお問い合わせの多い下記の2項目を容器に記載しました。

- ・ホワイトリカーが甲類焼酎であること
- ・保存中の品質変化がおこりにくいため、賞味期限を設けていないこと

お客様の  
「いきいき」の  
ために

## お客様の健康を考えます。

適切でない飲酒によるお客様の健康障害などを防止するため、適正飲酒の啓発活動を行うとともに、商品の特性をわかりやすくお伝えする表示を心掛けています。

### 適正飲酒の啓発活動

お酒は、適量であればリラックスやコミュニケーションを円滑にすることに役立ちますが、飲みすぎによる健康障害や未成年者飲酒、飲酒運転などの問題があることも事実です。

宝酒造では、適正飲酒の啓発は酒類を製造販売する企業の重要な責任と考え、この問題にいち早く取り組んできました。1985年の「Say No キャンペーン」では「いい日、いい酒、いいマナー」を提唱し、さまざまな形でメッセージを発信し、1986年にはお酒の正しい知識や飲み方を分かりやすくまとめたパンフレット「Say No 読本」を発行しました。

2009年には「Say No 読本」の内容をリニューアルして「お酒おつきあい読本」として発行し、さまざまなイベントで提供しています。また同内容を宝酒造ホームページでもご覧いただけます。

未成年者飲酒防止の取り組みとしては、1995年から製品本体における注意表示を実施しており、飲酒運転防止に関しても自主的な取り組みとして注意表示を実施しています。



「Say No キャンペーン」ポスター



「お酒おつきあい読本」

HP E:「お酒おつきあい読本」

### 誤飲防止

宝酒造では、目の不自由な方の誤認飲酒を防止するため、1995年に国内で初めてタカラ can チューハイの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を行いました。2002年には、やはり国内で初めて紙パック酒類のキャップに、同様の点字表示を行いました。

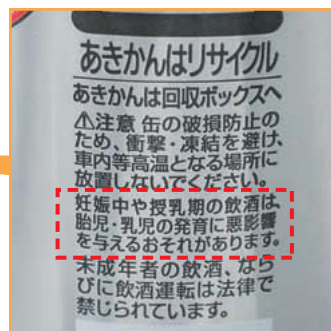


缶ぶたやキャップに点字を表示

### 妊産婦飲酒の防止

妊娠中の女性がお酒を飲むと、アルコールは血液を介して赤ちゃんの体内に入ります。その結果、生まれてくる赤ちゃんに脳や身体の発育障害、特徴のある顔貌、臓器・生殖器・手足の皮膚・骨・筋肉などの障害が現れる危険性があります。これらは「胎児性アルコール症候群」と呼ばれており、出産障害の原因の一つとされています。

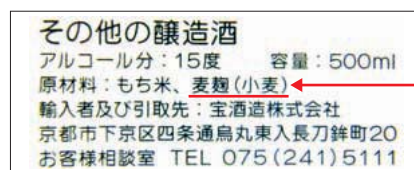
宝酒造では、ホームページや「お酒おつきあい読本」を通じて妊産婦飲酒の危険性についてお知らせしています。また、2004年に酒類業界として酒類の容器に妊産婦に対する飲酒の注意表示を入れることを決め、当社の酒類商品において「妊産婦飲酒警告表示」を実施しています。



適正飲酒に関する注意表示

### アレルギー物質の表示

アレルギー表示制度では、お酒に含まれるアレルギー物質の表示は免除されていますが、当社では制度に関わりなく、アレルギー表示制度が導入された2002年以降、義務表示と推奨表示の全25品目を表示することにより、商品に含まれるアレルギー物質をお客様に正確にお伝えするよう努めています。



アレルギー表示の例（紹興酒）

# 環境活動を支える仕組みを整えます。

ISO14001の統合認証を取得し、全社が一丸となって環境活動を推進できる体制をとっています。

## 宝グループ環境方針

### 1.TaKaRaの企業理念

「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」この基本理念に基づいて、宝グループは積極的に環境保全に取り組み、豊かな社会づくりに貢献します。

### 2.基本方針

宝グループの業務内容は、宝グループ全体の経営資源配分等グループ戦略の推進やIR活動および酒類・食品・酒精事業全般とこれを支援するマーケティング調査・人材派遣、IT化支援など多岐にわたっています。これらの活動が環境に与える影響を的確に把握し、地球環境保全に貢献するために、次の基本方針に基づき活動します。

- (1) 地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題の一つとして取り組みます。
- (2) 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。
- (3) 環境に関する法規制および組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
- (4) 事業活動全般の環境影響評価を的確に行い、技術的、経済的に可能な範囲で目的・目標を定めて実践し、また定期的に見直すことにより環境パフォーマンスの向上を図ることを約束します。
- (5) 宝グループが行う事業活動の中、特に以下の項目について優先的に環境保全活動を推進します。
  - ①天然資源を大切に、省資源・省エネルギーに努めます。 ②環境に配慮した商品開発に努めます。 ③グリーン購入に努めます。
  - ④環境活動への取組み、環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
- (6) 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

なお、本環境方針は、一般の人が入手可能なものにします。

2004年4月1日

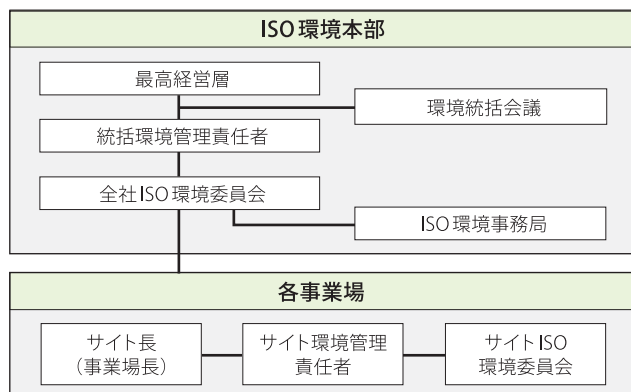
宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長／宝酒造株式会社 代表取締役社長 大宮 久

(注) ISO14001:2004における宝グループは、宝ホールディングス(株)、宝酒造(株)、(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)で構成されています。

## 宝グループ環境マネジメントシステム組織図

宝酒造の全工場、全支社、本社、および(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)でISO14001の認証を取得しています。ISO環境本部を中心に経営と直結した目標に向かって活動しています。

 1:ISO14001、9001 取得年表



## 環境関連法規遵守状況

ISO14001のシステムを有効に利用して定期的なチェックを実施し、法遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準やガイドラインも設定しています。

2009年度は、焼酎蒸留廃液の焼却設備について廃棄物処理法の設備変更許可申請の届出不備に係る指導を受けましたが、速やかに是正を行い再発防止の対策を実施しました。

### 主要な環境関連法規

- 公害関係法規(大気、水質、騒音、振動、土壤汚染、悪臭)
- 廃棄物処理関係法規
- 化学物質管理関係法規(PRTR法、毒物劇物取締法)
- リサイクル関係法規(容器包装リサイクル法など)
- 地球温暖化対策推進法、省エネルギー法
- 防災・危険物関係法規 など

# 「緑字決算」を公表します。

地球環境の負荷削減や自然保護活動などの結果を「緑字決算」という独自の指標で公表します。

## 緑字とは

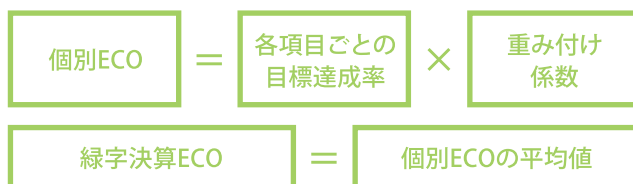
経済活動の成果を一般的に「黒字」「赤字」と表現することから、環境活動の成果を表現する言葉は何字だろう?と考えた時、環境＝緑のイメージから1998年に「緑字(りよくじ)」という言葉が生まれました。以来毎年「緑字決算」として宝酒造の環境活動の取り組み結果を公表しています。

## 緑字決算とは

「緑字決算」とは、宝酒造のさまざまな環境負荷削減や環境配慮活動の中から重要な項目を選定し、その改善度を“ECO(エコ)”という一つの指標で表したものです。一つの指標で表現するのは、活動の成果が、結果的にどうであったのかを皆様にわかりやすく理解していただくためです。

## 緑字決算ECOの算出方法

緑字決算の対象となる10項目は、それぞれ単位が異なるためその1年間の成果を単純にたし算する事ができません。そこで、各項目の目標に対する達成率に「重み付け係数」を掛けた「個別ECO」を平均して、緑字決算ECOを算出します。目標を達成できた場合は、“プラスECO”、その逆は“マイナスECO”で表します。なお、緑字決算ECOは、地球環境や社会情勢の変化に対応するため3年ごとにその算出方法を見直しています。



2: 緑字決算対象項目選定と重み付け投票詳細

## 環境会計

宝酒造の環境コストは、リターナブルびんシステム維持や中身を消費した後の容器包装のリサイクルを進めるための上流・下流コストのほか、環境マネジメントシステムの運用や活動推進のための管理活動コスト、公害防止コストの割合が高くなっています。そのほかにも、「TaKaRa 田んぼの学校」などの環境教育や地球温暖化の防止に貢

献するNPOを支援するなどの社会活動コスト、地球環境保全コスト、資源循環コストなどがあります。

2009年度はCO<sub>2</sub>削減のためのエタノールボイラー整備などの地球環境保全コスト、大口配送用コンテナ容器の購入などの上流・下流コスト、屋上緑化や排水監視装置の整備などの管理活動コストが増加しました。

(集計範囲: 宝酒造単体、単位: 千円)

分 類		主な取り組みの内容	2009年度	
			投資額	費用額
(1) 主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)			185,752	515,658
内 訳	①公害防止コスト	排水処理設備、ボイラー設備更新、賦課金等	44,911	272,161
	②地球環境保全コスト	エタノールボイラーの設置、蒸気配管の保温、排熱回収設備、冷蔵・冷凍設備の更新等	90,342	60,295
	③資源循環コスト	飼料化設備、廃棄物リサイクル設備の整備等	50,499	183,203
(2) 主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(上・下流コスト)		はかり売り用タンク購入、再商品委託費用、リターナブルびんシステム維持等	31,484	284,615
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)		環境マネジメントシステムの整備・運用、環境広告等	24,395	363,923
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)		製品等の製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	384
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		田んぼの学校運営、ベロタクシー支援、エコプロダクツ展出演等	0	26,277
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		産業廃棄物適正処理推進基金への拠出	0	47
合 計			241,631	1,190,905

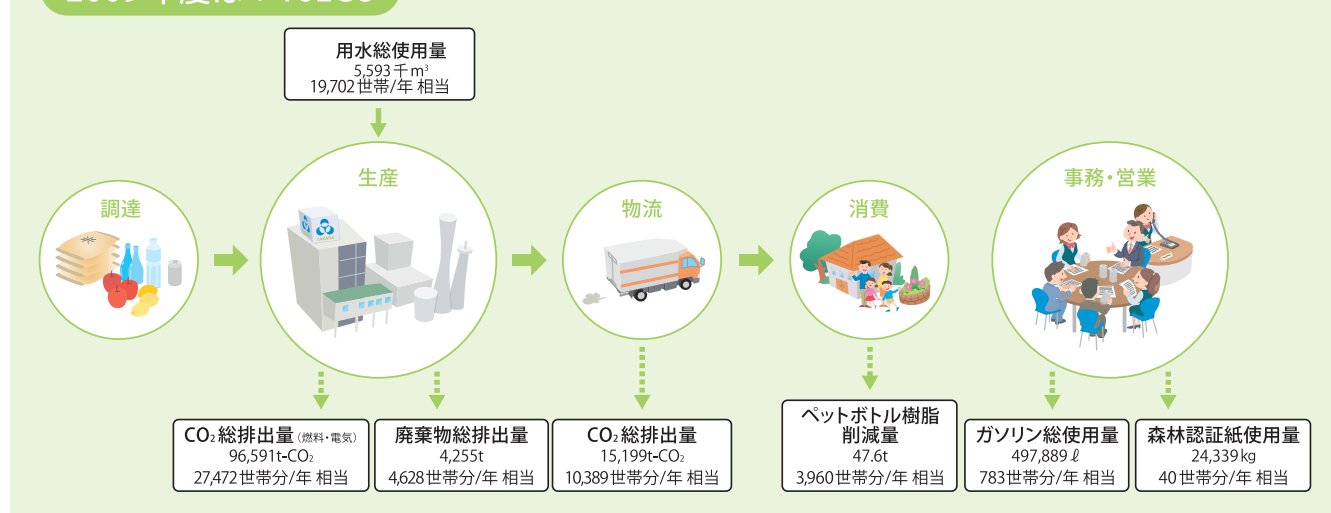


## 2009年度の緑字決算結果は、+16ECOです

2009年度は10項目中8項目で目標を達成でき、全体での緑字決算の結果は+16ECOとなりました。プラスECOとなったのは工場廃棄物排出量の削減や営業車の低排出ガス車への転換が順調に進んだことが主要因です。一方で、目標達

成に向けて活動を推進してきましたが、生産部門用水削減・環境ボランティアの推進については目標に届かず個別ECOがマイナスとなりました。

### 2009年度は+16ECO



※その他、社員のボランティア活動、環境配慮型商品の開発および環境コミュニケーション推進も緑字決算の対象としています。

## ●緑字決算

項目	生産部門CO <sub>2</sub> の削減	生産部門用水の削減	工場廃棄物の排出量の削減	物流部門CO <sub>2</sub> の削減	環境ボランティアの推進	グリーン購入の推進	環境配慮型商品の開発	環境配慮型商品の販売促進	営業車の低排出ガス車導入の推進	環境コミュニケーションの推進
評価指標 (単位)	焼酎換算製品製造量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kℓ-25%alc)	焼酎換算製品製造量あたりの用水使用量 (m <sup>3</sup> /kℓ-25%alc)	焼酎換算製品製造量あたりの廃棄物排出量 (kg/kℓ-25%alc)	製品販売量あたりのCO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /kℓ)	社員の環境ボランティア参加人数 (人)	森林認証された用紙の使用量 (kg)	環境配慮型の工夫仕組みを持つ商品の開発品数 (品目)	「はかり売り」実施店新規開拓店舗数 (店)	営業車の低排出ガス車導入率 (%)	環境啓発冊子リサイクルロードの配布部数 (部)
2009年度目標	173	9.42	9.76	41.1	723	24,176	2	10	35	3,500
2009年度実績	169	9.78	7.44	40.2	635	24,339	3	12	52	3,678
目標達成率 (%)	+2.6	-3.7	+31.2	+2.2	-12.0	+0.7	+50.0	+20.0	+48.6	+5.1
重み付け係数	1.16	1.09	1.29	1.11	0.76	0.90	1.07	1.07	1.06	0.56
個別ECO	+3.1	-4.0	+40.2	+2.4	-9.1	+0.6	+53.5	+21.4	+51.5	+2.8

焼酎換算製品製造量: 宝酒造では生産時の環境負荷の異なる多様な製品を生産していることから生産部門の指標の原単位分母には、焼酎(アルコール度25%)に換算した量を用いています。

3: 環境データ算出方法 4: 過去の緑字決算結果

2009年度緑字決算  
緑字決算ECO=個別ECOの平均値  
+16ECO

地球の  
「いきいき」の  
ために

# 環境目標の達成状況を報告します。

緑字決算の対象項目は、全社で取り組むISO14001 環境目標ともしています。

## ISO14001 環境活動結果

全社で取り組むISO14001は、2008年から2010年までの3ヶ年の計画に基づき活動を進めています。2009年度のISO14001環境目標の達成状況を報告します。

### ●2009年度 ISO14001 活動結果表



…目標を達成できました



…目標を達成できませんでした

項目、具体的な指標	目標 ⇒ 結果	2010年度目標
生産部門CO <sub>2</sub> の削減 焼酎換算製品1klあたりのCO <sub>2</sub> 排出量(2007年度比)	2%削減 ⇒ 4.6%削減	2007年度対比 5%削減
生産部門用水の削減 焼酎換算製品1klあたりの用水使用量(2007年度比)	2%削減 ⇒ 1.8%削減	2007年度対比 ±0%
工場廃棄物排出量の削減 焼酎換算製品1klあたりの廃棄物排出量(2007年度比)	1.5%削減 ⇒ 24.9%削減	2007年度対比 25%削減
物流部門CO <sub>2</sub> の削減 焼酎換算製品1klあたりのCO <sub>2</sub> 排出量(2007年度比)	1.5%削減 ⇒ 3.6%削減	2007年度対比 3.6%削減
環境ボランティアの推進 社員の環境ボランティア参加の増加人数(2007年度比)	200人増加 ⇒ 112人増加	2007年度対比 ボランティア参加人数の150人増加
グリーン購入の推進 森林認証された用紙の使用量(2007年度対比)	230%増加 ⇒ 232%増加	2007年度対比 240%増加
環境配慮型商品の開発 環境配慮型の工夫や仕組みをもつ商品の開発品数	2品目以上 ⇒ 3品目	環境配慮型商品の開発 2品目以上
環境配慮型商品の販売促進 「はかり売り」実施店新規開拓店舗数	10店舗以上 ⇒ 12店舗	「はかり売り」新規開拓 10店舗以上
営業車の低排出ガス車導入の推進 営業車の低排出ガス車導入率	35%以上 ⇒ 52%	低排出ガス車導入率 65%以上
環境コミュニケーションの推進 環境啓発冊子「リサイクルロード」の配布部数	3,500部以上 ⇒ 3,678部	環境啓発冊子の配布部数 4,000部以上

### ●2009年度のTOPICS



5:ISO14001 活動結果詳細



6:工場副産・廃棄物の用途



7:工場別サイトレポート

#### ○:工場廃棄物排出量の削減

工場廃棄物の再資源化に取り組み、酒粕などの副産物を含む再資源化率は高い水準に達しています。  
現在は、排水汚泥やびん、缶などの空容器の削減を中心に工場廃棄物排出量の総量削減に取り組んでいます。  
2009年度は、排水処理設備への負荷の減少により汚泥が減少したため、総量削減で大幅に目標達成ができました。

#### ×:生産部門用水削減

お酒の原材料として水を使用するほか、装置や容器の洗浄及び製品の冷却にも水を使います。  
生産工程での水の再利用や節水により、用水の削減に取り組んでいます。  
2009年度は、アルコール蒸留の増加に伴い使用する冷却水が増加し、目標は達成できませんでした。

地球の  
「いきいき」の  
ために

# 空容器の問題解決に取り組めます。

環境配慮型商品の開発や次世代を担う子どもたちへの啓発活動など、  
空容器の問題解決に幅広く取り組んでいます。

## 環境配慮型商品の開発：4Rの推進

宝酒造では、焼酎や清酒、チューハイ、本みりんなどを製造し、ガラスびんやペットボトル、アルミ缶、紙パックなど様々な容器に充填して販売しています。ところが、これらの商品を販売し中身が消費された後に発生する空容器は、社会に大きな環境負荷を与えています。

このため、当社ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース(Reduce:減量化)、リユース(Reuse:再使用)、リサイクル(Recycle:再資源化)の3Rにリフューズ(Refuse:発生回避)を加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分な物は買わずに必要な物だけを

買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、余分な容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。

# 3R+R

**Reduce**  
(減量化)

**Reuse**  
(再使用)

**Recycle**  
(再資源化)

**Refuse**  
(発生回避)



F:環境配慮型製品



8:720mlリターナブルびんの推移

## 伏見・灘地区の酒パック循環型リサイクルシステムに参画

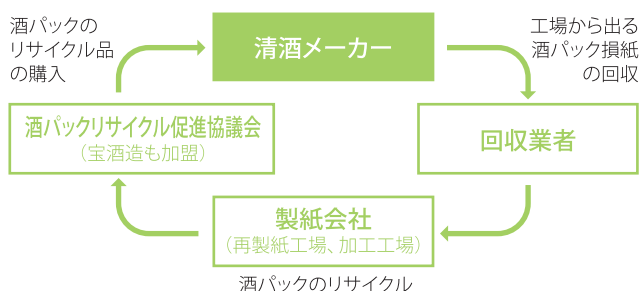
回収拠点の不足やリサイクルの難しさなどの理由から、酒パック容器のリサイクルはほとんど進んでいません。このため、酒パックリサイクル促進協議会に参加し、酒パックのリサイクル推進に努めています。その活動の一環として、酒パック循環型リサイクルシステムに参画しています。

このリサイクルシステムは、伏見及び灘地区の清酒メーカーが協力、今まで各社各様に処理していた製造工程で発生する酒パックの損紙を、清酒メーカーが集積している利点を活かして効率よく共同回収し再製紙化するものです。さらに、このシステムに参加する各社は、排出した酒パックから生まれたリサイクル品を積極的に使用することにも努めています。



ポスターや小物などに酒パックのリサイクル品を多数使用した「エコプロダクツ2009」の宝酒造ブース

## ●伏見・灘地区酒パック循環型リサイクルシステムの概要



## 環境配慮型商品の開発

宝酒造では、ISO14001の目標に「環境配慮型商品の開発」を掲げ、毎年2件以上の商品改良や開発を行うことを目標として活動しています。



9:環境に配慮した商品開発のための指針



10:グリーン調達・4Rガイドライン

## ●2009年度環境配慮型商品開発・改良事例

- ・上撰松竹梅及び佳撰松竹梅:200mlびんカップ軽量化びん採用
- ・上撰松竹梅:300ml軽量化びん採用
- ・宝焼酎:2ℓPET軽量化ボトル採用

## 業界関連団体との連携による取り組み

容器リサイクルを推進するためには、関連する業界全体で取り組まなければ解決できない問題がたくさんあります。

宝酒造では、種々の容器リサイクル団体に加入し、運営も含めた団体の活動に積極的に参加しています。リサイクル団体では、日頃は事業活動で競合しているメンバーがリサイクル推進という共通目的のために知恵を出し合い、効率的なリサイクルシステムの構築や機関紙・ホームページ・展示会などを通じた容器リサイクルの啓発活動などを行っています。

## ●宝酒造が加入している主なリサイクル団体

- ・ガラスびんリサイクル促進協議会
- ・PETボトルリサイクル推進協議会
- ・アルミ缶リサイクル協会
- ・紙製容器包装リサイクル推進協議会
- ・酒パックリサイクル促進協議会



# 次世代に自然の大切さを伝えます。

自然の恵みと命のつながりを学ぶ「TaKaRa 田んぼの学校」を開校しました。

## TaKaRa 田んぼの学校 2009 を開校

次世代を担う子どもたちに自然の尊さやそれを守ることの大切さを伝えることを目的として、「TaKaRa 田んぼの学校」を開校しました。

HP G: 田んぼの学校

テーマ: 自然の恵みと命のつながりを学ぶ

趣 旨: ①自然を守り大切にすることを養う(環境教育)

②農体験を通じて自然の恵みに感謝する心を培う(食育)

③お米と本みりんに関する認識を深める(社会・伝統文化教育)

4月18日(土)

## 田植え編

〈田植え体験・草花名刺づくり・自然観察・振り返り〉



6月6日(土)

## 草取り編

〈草取り体験・かかし作り・自然観察・振り返り〉



## TaKaRa 田んぼの学校の特徴

特徴

①

コミュニケーションを大切にしています。

TaKaRa 田んぼの学校では多くの人が関わっています。家族内や参加者同士はもちろん、いろいろな人達とのコミュニケーションを大切にしています。

(例) 草花名刺で自己紹介  
自己紹介のあとの授業では、参加者同士の会話がはずむようになります。



草花名刺を使って自己紹介

特徴

②

五感を使った観察

単なる農作業や知識の習得ではなく、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触感の五感を使った観察を重視しています。

(例) 味覚や触覚を使った自然観察



コバンソウの実の味を確かめてみる



ネバネバする花粉を指先にとってみる

## TaKaRa 田んぼの学校とは

この学校は、4月からの約半年間に計4回の授業を実施します。第1回の「田植え編」から「草取り編」「収穫編」までの授業は、千葉県印旛郡の田んぼで行います。そこでは、自分の手で苗を植え、草を取り、稲穂を刈り取って、お米（もち米）ができるまでを体験するとともに、田んぼやその周辺の植物や昆虫などの生き物を観察します。第4回の「恵み

編」の授業は、当社の松戸工場で行います。そこでは、簡単な実験を交えながら料理を美味しくするお酒や本みりんの力などについて学んだり、自分たちが育てたもち米でお餅つきを行います。収穫したお米は、当社の伏見工場でお米を造り、お子さま手作りのオリジナルラベルを貼って、参加者のもとにお届けします。

### 9月12日(土) 収穫編

〈稲刈り体験・脱穀体験・わら紙づくり・振り返り〉



### 10月24日(土) 恵み編

〈餅つき・ラベルづくり・本みりんの効果(実験など)・振り返り〉



### 翌年3月 本みりん完成



収穫したもち米を使って、当社の伏見工場でお米を造ります。子どもたちが手づくりしたオリジナルラベルを貼って、それぞれのご家族のもとへ届けます。

特徴

③

## 企業、NPO、地元の3者 協働による学校の運営

「TaKaRa 田んぼの学校」は、地元農家や千葉県自然観察指導員協議会のみなさん、NPO 法人森の学校:のみなさん、さらには、宝酒造の社員ボランティアなど、多くの人たちの協力に支えられて運営しています。

### ●学校の運営



特徴

④

## 感動体験を 長く記憶に刻む

感動体験もそのままでは直ぐに忘れてしまいます。一過性の記憶で終わらせないよう工夫をしています。

(例) 振り返りの授業

毎回、1日の終わりには振り返りの授業を行っています。



感じたことを絵や文章にする



皆の前で発表

# よりよい社会づくりをめざします。

宝酒造では、さまざまなイベントへの協賛・出展のほか、啓発活動などに取り組んでいます。

## 白壁蔵でジュニア酒スクールを開催

「ジュニア酒スクール」とは毎年、神戸市東灘区主催のもと開催され、白壁蔵が平成16年度より運営をまかされているイベントで、「灘の伝統産業である酒造りの歴史」「酒造りの手順」「リサイクルなどの環境問題」「宮水の歴史・由来」など、酒にまつわる伝統文化や環境問題について楽しく学んでいただいています。

2009年は7月31日に開催しましたが、小学生と保護者ら約20名が参加し、実際に酒造りが行われている工場内で各工程を見学したり、ガラスびんの分別をおこなったり、水道水と宮水（灘の酒造りに欠かせない名水）の飲み比べなどを体験しました。



原料米の観察

## インターンシップの実施

職場体験を通じて企業活動や組織について理解を深め、自分の適性や能力に見合った職業を選択する意識を醸成してもらうことを目的に、大学生および大学院生を対象としたインターンシップを1998年から実施しています。学生みなさんに「商品企画のプロセスから“ものづくり”の考え方を学ぶ」をテーマに、商品コンセプトの設計や市場データの調査、試作品の制作などを体験していただきました。

### ●インターンシップ受け入れ人数

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
インターンシップ受け入れ人数	8	8	12	12	12

## 第2回 GREEN×LOHAS FESTA への協賛

2010年3月に京都の宝が池公園で開催された「第2回 GREEN×LOHAS FESTA」に協賛しました。

GREEN×LOHAS FESTAとは、関西の大学生が実行委員を務め、「無理をせず、自分にできる範囲のエコを生活に取り込むこと」を多くの方に実践していただきたいと願って開催されているものです。

宝酒造では、当日のスタンプラリーとして使用される絵はがきの紙に、酒パックをリサイクルしたものを提供しました。



グリーンロハスフェスタの看板

## 宝酒造杯(囲碁大会) 開催

日本の伝統・文化を大切に継承する宝酒造は、囲碁とお酒が楽しめる囲碁大会「宝酒造杯」を財団法人日本棋院と共同で開催しています。棋力別に成人なら誰でも参加できるアマチュア向け唯一の全国規模の囲碁大会で、2年目となる2009年度は8地区10大会で初年度に比べ約4割多い2,965名の方に参加いただきました。

宝酒造では、囲碁など文化イベントへの活動を通じてお客様や地域の交流を図っています。



第2回宝酒造杯

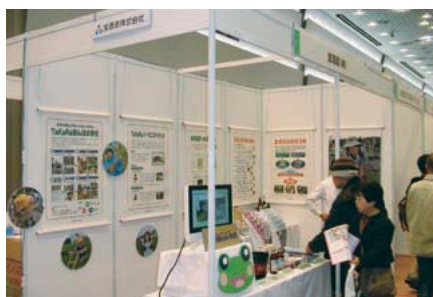


## 生物多様性EXPOに出展

宝酒造では、2010年3月に大阪国際会議場で開催された生物多様性をテーマとした総合展示会「生物多様性EXPO 2010 in 大阪」に出展しました。

生物多様性EXPOは、生物多様性に配慮した事業や企業の取り組みを紹介することで、生物多様性の保全や持続可能な利用についての普及啓発を図ることを目的としています。

宝酒造のブースでは、自然の恵みのありがたさや命のつながりの大切さを次世代に伝える環境イベント「TaKaRa 田んぼの学校」や「TaKaRa ハーモニストファンド」を中心とした取り組みを紹介しました。



生物多様性EXPO出展の様子

## その他の出展

2009年度は、4月に開催された「アースデイ東京」、12月に開催された国内最大規模の環境展である「エコプロダクツ展」にも出展しました。

これらの展示会においては、空容器の問題への取り組み（環境配慮型商品の開発・はかり売り）や環境教育の取り組みを中心に紹介しました。

## 次世代を担う子どもたちへの啓発活動

NPO法人日本環境倶楽部と共同で作成した飲み物容器のリサイクル啓発絵本「TaKaRa リサイクルロード」を最新の内容にリニューアルしました。全国の小中学校の希望者や、エコプロダクツ展などの環境イベントにおいて、無料配布しています。なお、この冊子は京都エコポイントモデル事業でカーボンオフセットされた電力を使用して印刷しています。



TaKaRa リサイクルロード

## 授業や講演会への協力

大学や高校などでの授業や講演会等において、要請があれば積極的に協力するようにしています。当社が実施している環境教育の事例紹介や環境負荷削減活動の紹介など、ご要望いただいた内容に合わせた授業や発表を行いました。

### ●講演会や授業への協力

講演会名または学校名
食と環境ビジネスゾーン・オープン・セミナーにて講演
大阪産業大学CSR経営特論にて講義
龍谷大学環境学にて講義
神奈川県 私立 自修館中等教育学校 総合学習の講師
大阪産業大学人間環境学部ゼミ インタビュー対応
東京都 中央区立阪本小学校への出張授業

## 各地のボランティア活動

社会貢献活動の一環として、各地のボランティア活動に積極的に参加しています。

### ●主なボランティア活動

実施内容	事業場
京都市まちの美化 清掃ボランティア	本社
「TaKaRa 田んぼの学校」サポーターボランティア	全社
「地球ピカピカ大作戦」各事業所周辺清掃ボランティア	労働組合
阿武隈川 清掃ボランティア	東北支社
江戸川を守る会主催「江戸川クリーン大作戦」参加	松戸工場
地域育樹ボランティア	島原工場

## その他の社会貢献活動

宝酒造では、次のような社会貢献活動も行っています。

### ●その他の社会貢献活動（協賛）

支援内容
阿武隈川きらきらキャンペーン（福島県）
長野の宝を守ろうキャンペーン（長野県）
ペロタクシー協賛（東京都、京都府）
第3回ボランティア・市民フェスタ（京都市）
東京都中央区フラワーサポート（東京都）
京都エコポイントモデル事業（京都府）
ボランティア活動支援用ゴミ袋協賛（京都市）
田んぼ国際環境教育会議2009（山梨県）

# 宝グループ各社の取り組みを紹介します。

宝グループ各社につきましてもそれぞれでさまざまな取り組みをしています。  
その一部をご紹介します。

## 大平印刷の取り組み

大平印刷では、印刷物にも「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた、人にやさしい印刷物「ユニバーサルプリンティング」への取り組みを行っています。

その中で、色弱の方にも一般の方にも見分けやすい配色「カラーユニバーサルデザイン(CUD)」を推進しています。色弱の方は、日本人男性の20人に1人、女性の500人に1人、日本に320万人、世界に2億人いるといわれます。

この「CUDマーク」は、特定非営利活動法人「カラーユニバーサルデザイン機構」が検証し、合格したものに表示されます。2009年度のユニバーサルプリンティングの導入事例としては、阪急電鉄株式会社の時刻表や路線図、停車駅案内などのデザインに採用されました。

もうひとつの主な取り組みは、ワクチンペーパーです。世界の子どもにワクチンを購入するための寄付金を含んだ印刷用紙「ワクチンコート」「ワクチンマットコート」を日本紙パルプ商事株式会社と共同で作成し、「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」の活動を支援しています。皆様のご協力のもと2009年の1年間で42,556人分のワクチンを贈ることができました。

さらに2010年度から日本赤十字社への寄付金付用紙「赤十字ペーパー」や財団法人日本盲導犬協会への寄付金付用紙「盲導犬支援ペーパー」を作成し、各団体の活動を支援しています。



ユニバーサルプリンティングを採用した時刻表



ワクチンペーパーの案内

## 長運の取り組み

地元長崎をデザインでPRし地域に貢献しようと、地元の画家である野田照雄氏にデザインをお願いし、地元長崎で開催される「長崎諏訪祭(長崎くんち)」と「新鮮な長崎の魚」を長距離輸送の新型ウィングトラックの側面にデザインしました。

長崎くんちの龍踊り(じゃおどり)などの各種出し物と、長崎で水揚げされるアジ、サバ、タイ、ブリ、トビウオなどの魚が色彩豊かに描かれています。



長運新型車両

## ラック・コーポレーションの取り組み

ワイン販売子会社のラック・コーポレーションでは、社会貢献活動の一環として販売促進等の販促物を障がい者授産施設に作成していただけてきました。

2009年度からは、「木製ワインディスプレイ」に加え「ワインレコーダー(ワインのラベルをきれいに保存するためのファイル・グッズ)」を健常児と自閉症児の混合教育を日本で唯一進めている学校法人武蔵野東学園 武蔵野東技能高等専修学校において、自閉症児の作業実習用教材として生徒さんに作成していただきました。



ワインレコーダー

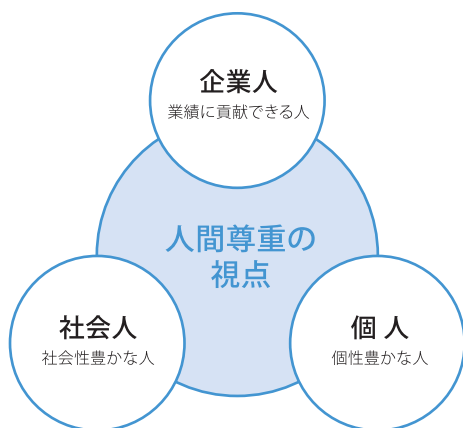
# 人財育成・能力開発に取り組みます。

「企業人・社会人・個人」のバランスのとれた人財を育てるために、  
人事制度をはじめ、能力開発やスキル向上を目的とした研修制度の拡充に取り組んでいます。

## めざすべき人財像

「人」はかけがえのない「財産」であるとの視点に立ち、私たちは人材を「人財」と表現しています。また、TaKaRaグループ長期経営構想(TE-100)でめざしている企業価値の向上を実現するためには、「風土・人財の進化」が欠かせないと考え、私たちは人間尊重の立場に立ち、「いきいきと明るい職場、人を育む風土」をつくり、その中で「企業人・社会人・個人のバランスのとれた人財」を育成していきます。

### ●私たちがめざす人財像



## 人事制度の概要

私たちの人事制度では、その中心を「役割」に置いた「役割等級制度」を採用しています。この制度の目的は、役割や成果の発揮に応じた公平・公正な処遇を実現することで、社員一人ひとりが持つ力をより一層引き出していくことにあります。目標管理から評価までのプロセスにおいて、利益管理を徹底するとともに、個人業績と評価との連動性を高め、成果を上げればしっかりと報われる制度となっています。一般社員の制度運用にあたっては、労働組合とともに適正な運用を心掛けています。

## 人財育成・能力開発のために

「めざすべき人財像」や求められる「役割」を発揮できる人財に育成すべく、目標管理制度による職場での仕事を通じた人財育成を基本にしています。

また、自己申告制度により、社員一人ひとりのキャリアの方向性を把握し、それも踏まえた人財ローテーションを行うことで、社員の能力開発につなげています。そして新入社員アドバイザー制度をはじめとするOJT、各種Off-JT(集合研修)、自己啓発支援制度などにより能力開発につながる環境を整えています。

### ●人財育成・能力開発に関する主な制度・研修

目標管理制度、自己申告制度、新入社員アドバイザー制度	
集合研修メニュー	階層別研修、キャリア形成支援、自主選択型研修プログラム、その他各種研修
自己啓発支援制度	通信教育、資格・免許取得者表彰、大学院履修援助

## VOICE



新入社員研修 修了者の声  
東北支社 販売第二課  
宮崎 裕也

新入社員熟成プログラムがあったからこそ…、こんなに宝酒造を好きになり、仕事にも夢中になれるのだと思います。実体験を重視した研修を通して、工場では商品の造り手の想いに触れながら商品知識を得ることができ、営業現場では目標となる先輩にも出会えました。同期入社の子とは長い研修でぶつかりながら、自分の強み弱みとは何か真剣に考えさせられました。そこでの経験はまさしく「宝物」です。これほどの多様な学びや先輩との繋がりは、宝酒造ならではの研修の成果だと思っています。今では、自社商品への愛着も強く、社員間の交流が盛んな宝酒造の風土が大好きです。この熟成プログラムの中で、心底「商品と人」に惚れられたからこそ、そこで得た経験に支えられて、この東北の地で笑顔で仕事に打ち込めるのだと思います。



# 働きやすい環境づくりに取り組みます。

社員がいきいきと安心して働ける職場づくりのために、さまざまな取り組みをしています。

## 雇用状況

2010年3月31日現在の社員数は1,316人で、5年前に比べると効率化や体質の強化によるスリム化の推進により、158名少なくなりました。一方で、2005年4月1日からシニアパートナー制度を導入し、定年後も活躍できる体制を整えています。

### ●社員数内訳

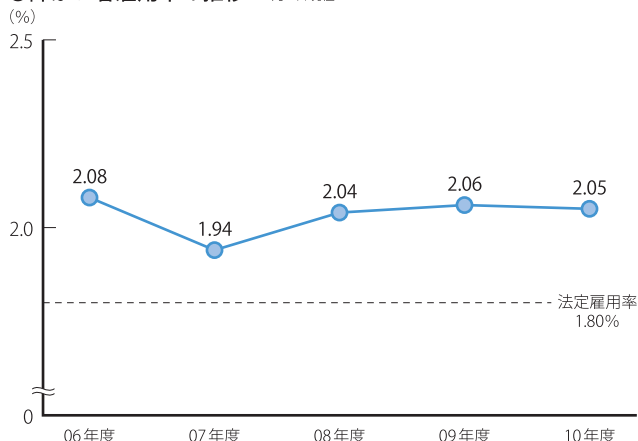
		2005年3月31日		2010年3月31日	
		人数	構成比	人数	構成比
社員総数	男性	1,302名	88.3%	1,166名	88.6%
	女性	172名	11.7%	150名	11.4%
	合計	1,474名		1,316名	
うち 管理職数	男性	270名	99.3%	299名	98.7%
	女性	2名	0.7%	4名	1.3%
	合計	272名		303名	

## 障がい者の雇用促進

障がい者の雇用にあたっては、職業能力の把握、障がい者特性に応じた職域の確保・開発、作業施設の改善など、多くの配慮すべき点があります。これら一つひとつを改善し、解決していくことで、障がい者がその能力を十分に発揮できる職場、健常者とともに職業生活に参加し、働く生きがいをみだすことができる職場を確保するべく取り組んでいます。

なお、2010年4月1日現在の障がい者雇用率は、2.05%と現行の法定雇用率1.80%を上回っています。

### ●障がい者雇用率の推移 ※4月1日現在

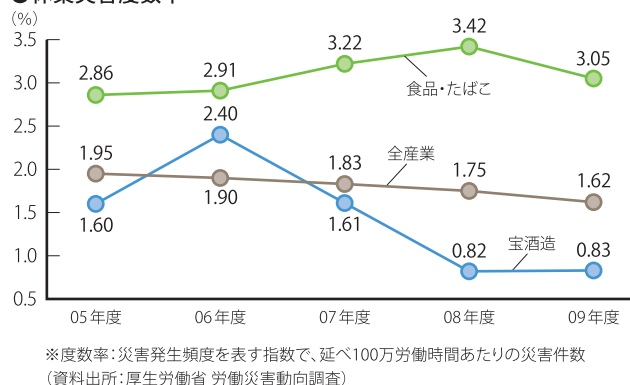


## 安全衛生管理の取り組み

社員が安全に働ける環境を整えるために安全衛生委員会を設け、社員の危険予知能力や安全意識の向上に向けた活動をしています。工場では「労働安全衛生マネジメントシステム」に基づき、危険が潜む作業や設備を明らかにして事故の防止に努めています。

2009年度の休業災害は1件で、今後も事故発生原因と対策の水平展開を図り、労働災害ゼロ化をめざしていきます。

### ●休業災害度率



## 安否確認システム

災害発生時において、社員およびその家族の安否や現地の状況について、迅速に把握し適切な初期対応につなげるために、携帯電話のメール機能などを利用した安否確認システムを導入しています。

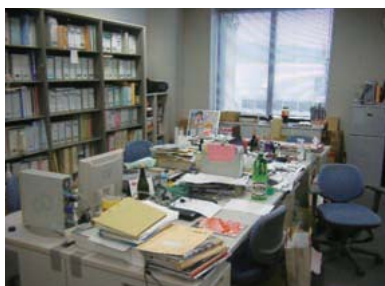


携帯電話のメール機能にて安否確認を行います

## 業務革新の取り組み

宝酒造では業務革新として事務・営業系業務を徹底的に見直し、その効率化に取り組んでいます。その成果として、所定外労働の削減と定時退勤化が進んでおり、社員のワークライフバランスの向上にも寄与しています。

また書類の整理や不要書類の廃棄を行いオフィスのクリーン化を進めたことにより、一層快適な職場環境が実現しました。



クリーン化前



クリーン化後

## 健全な労使関係

宝酒造はTaKaRa労働組合と労使の信頼を基盤に健全な労使関係を構築しています。

労使協議会や各種労使専門委員会を開催し、経営内容に関する報告や労働条件について協議を行っています。

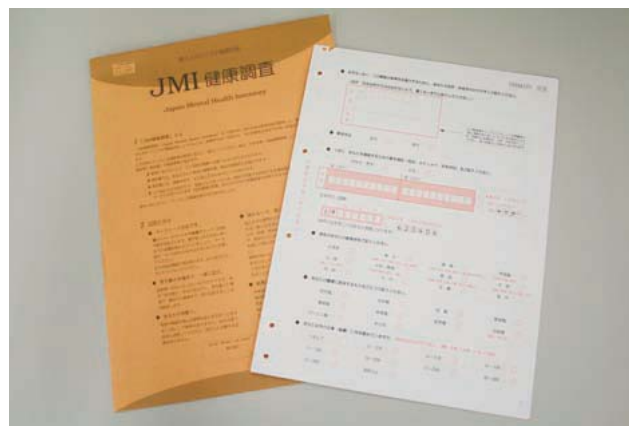
## 人権尊重・セクシュアルハラスメントの防止

社員の人権を尊重し、差別のない明るくいきいきと働くことができる職場づくりをめざし、入社時や管理職研修において、人権に関する啓発活動を実施しています。採用活動においても、男女雇用機会均等法を遵守するとともに、人権に関する事項を徹底するため、採用にかかわる社員に、マニュアル等により事前の説明を行っています。

また、セクシュアルハラスメント防止に向けて、事業場ごとに相談・苦情の窓口、ならびに苦情処理委員会を設置しています。

## メンタルヘルスの取り組み

社員の心の健康状態については、宝グループ健康保険組合を通じて、外部機関の診断を定期的に受けられるようになっています。診断結果は本人のみ通知され、希望に応じて電話や面談によるメンタルカウンセリングを受けることができます。



心の健康の調査票

## VOICE



TaKaRa労働組合から  
TaKaRa労働組合 中央執行書記長  
大館 洋一

## 労働条件の向上と働きがいを得るための活動

TaKaRa労働組合は、健全な労使協調路線のもと、賃金や労働時間などの直接的な労働条件の向上のみならず、働きがいを得られる職場をめざして活動しています。2007年～2013年の長期計画「サンシャイン2013」においては、「仕事と私事のバランスがとれた毎日～オンもオフも充実させよう～」「心身ともに元気な毎日～健康で生き活きた生活を送ろう～」「目標をもって熱くなれる毎日～達成感・満足感を追い求めよう～」「信頼しあえる仲間がいる毎日～仲間とともに喜びを分かちあおう～」という4つの毎日を実現していくことをめざしています。

# 仕事と家庭の両立を考えます。

仕事と家庭のバランスを大切にしたい、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

## 仕事と家庭の両立のために

個人の価値観やライフスタイルに応じて、社員が仕事と家庭を両立できる働きやすい環境を整えることによって、社員の能力が十分に発揮できるような体制作りに取り組んでいます。

## 「次世代育成支援企業」に認定

2007年4月1日より「父親が配偶者の出産時に取得できる休暇制度」と「結婚・出産・育児・介護・配偶者の転勤など家庭の事情を理由とする退職者の再雇用登録制度」を導入したこと、また、男性社員の育児休職取得を推進したことにより、2007年6月に厚生労働省京都労働局より次世代育成支援対策推進法に基づく「基準適合一般事業主」の認定を受けました。

## 育児休職者に対する支援

「育児と仕事を両立できる環境」の実現をめざし、育児休職者に対して、インターネットを通じた職場復帰支援プログラムを実施しています。これは、休職者の豊かな育児生活とスムーズな職場復帰を支援するための取り組みで、休職期間中の能力開発や会社とのコミュニケーション促進をはかるものです。社員の育児休職期間をブランクの期間からブラッシュアップの期間に転換し、男女ともに働きやすいワークライフバランスのとれた企業を目指しています。

### ●休職休暇制度利用状況

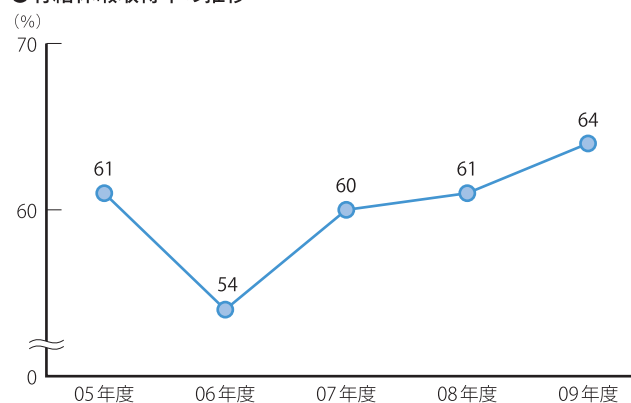
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
育児休職制度（利用者数）	7	15	18	14	9
介護休職制度（利用者数）	0	0	0	0	0
乳幼児看護休暇制度（利用者数）	57	56	56	57	68
妊産婦・乳幼児健診休暇制度（利用者数）	26	20	23	12	18

## 休日休暇制度

年間124日（完全週休2日制）の休日のほか、有給休暇は入社時に年10日間付与され、以後勤続年数によって最大年20日間付与されます。また、2年以上経過した有給休暇は最大40日まで積み立てが可能で、本人の疾病、家族の介護、資格取得の際などに利用することができます。

さらに、25歳から55歳まで5年ごとに10日以上連続休暇を取得するリフレッシュ休暇制度も設けています。その他、事業場単位で週1回「ノー残業デー」などを設けるなど、長時間労働の抑制を図っています。

### ●有給休暇取得率の推移



## 福利厚生制度

社宅・独身寮などの基本メニューのほかに、社員一人ひとりが自分のライフプランに合わせて、あらかじめ用意されている福利厚生メニューから一定のポイント内で自由に選択して利用できる「カフェテリアプラン」を導入しています。毎年社員の要望に応じて、ポイント利用メニューの拡充、変更を行い、積極的な活用を呼びかけています。

### ●カフェテリアプランの例

- ・社宅・寮使用料補助
- ・住宅ローン利子補給
- ・育児サービス利用補助
- ・介護サービス利用補助
- ・子女入学金補助
- ・医療費用補助
- ・自己開発メニュー利用補助
- ・書籍購入費用補助
- ・宿泊施設利用補助
- ・スポーツ施設利用補助
- ・レジャー施設利用補助



# 社内の体制を整えます。

グループの経営方針、コーポレート・ガバナンスについて報告します。

## TaKaRa グループ経営方針

TaKaRaグループは、穀物や水、微生物といった自然の恩恵をもとにした発酵技術と、最先端のバイオ技術をベースに企業活動を進めています。そして、自然の恵みに感謝するとともに、これらの技術を背景に消費者の皆様の視点を第一に考えた商品やサービスを提供する事で「自然と社会と人間との調和」をめざしています。

2000年5月に発表した2010年までの10年間の長期経営構想「TaKaRa Evolution-100 (TE-100)」では、この企業理念に基づいた経営方針として、「お客様の視点」、「人間尊重の視点」、「自然・社会との調和の視点」の3つの視点を大切に企業活動を行うことを掲げ、経営目標としてTaKaRaグループの企業価値の向上をめざしています。

また3年ごとの具体的な行動計画である中期経営計画を策定し実行しています。2008年度からの3カ年の経営計画「TaKaRaグループ第7次中期経営計画」では、「成長投資と株主還元を通じ、中核事業の持続的安定成長と、成長事業育成の加速を実現し、企業価値の向上をめざす」という基本方針のもと、グループ各社が最大限の成果とシナジーをめざして取り組みを進めています。

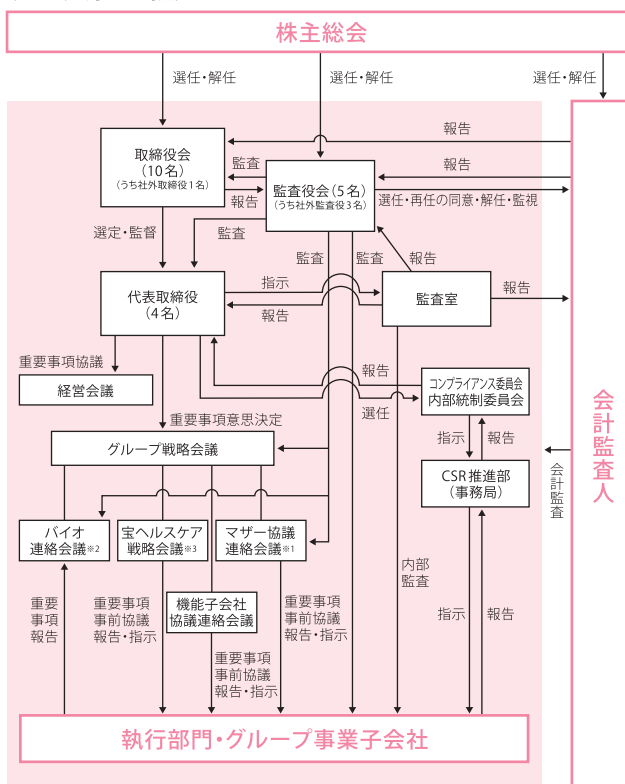
## コーポレート・ガバナンス

TaKaRaグループは、純粋持株会社「宝ホールディングス(株)」と、「宝酒造(株)」、「タカラバイオ(株)」、「宝ヘルスケア(株)」などのグループ会社32社(2010年3月31日現在)で構成されており、宝ホールディングス(株)は、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、持株会社として各社の業務執行を監督するため、「グループ会社管理規定」を制定し、以下の体制で業務執行、監査・監督を行っています。

①監査役制度の下、監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査を通じて、取締役の職務執行を監査しています。また、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携して業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

②グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的に、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「バイオ連絡会議」、「機能子会社協議連絡会議」を開催するほか、特に急を要する事項や専門性の高い内容については、随時「経営会議」を開催して事前協議を行っています。

(2010年6月29日時点)



※1 酒類・調味料事業 ※2 バイオ事業  
※3 健康食品事業

# 社内の体制を整えます。

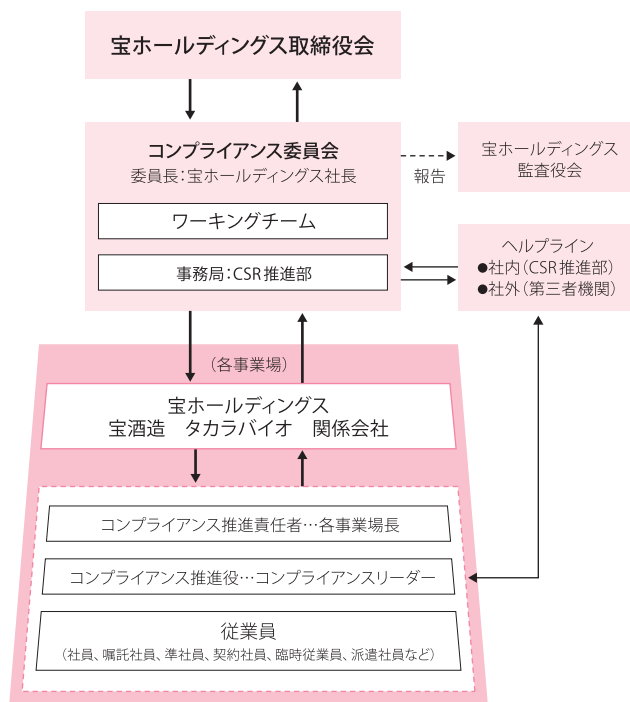
コンプライアンスを推進するための社内体制などについて報告します。

## コンプライアンス推進体制

TaKaRaグループでは、誠実で公正な企業活動の確保をめざすため、社長を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ全体のコンプライアンス推進体制の強化を図っています。そして、グループ各社が適正に、法・社会倫理を遵守し、危機管理に対応することで、TaKaRaグループ全体が企業の社会的責任を果たし、企業価値を向上させることをめざしています。コンプライアンス委員会の方針のもと、具体的な活動は各社の社長・コンプライアンス担当役員・事業場長が責任者となり指導・推進を行うとともに、職場ではコンプライアンスリーダーが推進役を担う体制を構築しています。

また、TaKaRaグループにおける法令違反や不正行為を未然に防止することを目的に、「ヘルプライン」を設置し、「公益通報者保護法」および「ヘルプライン規程」に基づいて運用しています。

### 1. コンプライアンス推進体制



### 2. 法・社会倫理の遵守のために

#### ① コンプライアンスマインドの浸透・定着

「TaKaRaグループ コンプライアンス行動指針」に基づき、トップ・管理職・一般社員の各階層別に、集合研修や職場教育などを行いコンプライアンスマインドの浸透・定着を図っています。

#### コンプライアンス行動指針の基本的な考え方

- ①国内外の法令を遵守するとともに、社会倫理を十分に認識し、社会人としての良識と責任を持って行動します。
- ②自然環境への負荷の軽減に取り組み、生命の尊厳を大切に生命科学の発展に貢献します。
- ③この行動指針に反してまで利益を追求することをせず、公正な競争を通じた利益追求をすることで、広く社会にとって有用な存在として持続的な事業活動を行います。

#### 〈コンプライアンス・トップセミナー〉

TaKaRaグループでは、役員・事業場長・各グループ会社社長などのトップ層を対象としたコンプライアンス・トップセミナーを毎年実施しています。この研修は、コンプライアンスの推進、リスク発生の防止や発生した緊急事態への対応などからテーマを選択し、外部講師による集合研修として行っています。TaKaRaグループにおけるコンプライアンスの浸透・定着および危機管理の強化への取り組みの一環として、今後も継続して実施していきます。



コンプライアンス・トップセミナーの様子

### 〈コンプライアンスリーダー研修〉

TaKaRaグループでは、職場におけるコンプライアンスの推進役として、毎年、コンプライアンスリーダーを選任し、集合形式のコンプライアンスリーダー研修を実施しています。そして、研修をふまえた職場教育およびコンプライアンス活動の推進を、コンプライアンスリーダーが職場の中核となって実施しています。このように、コンプライアンス委員会、事務局およびコンプライアンスリーダーの連携によって、現場へのコンプライアンス意識の定着をはかっています。



コンプライアンスリーダー研修の様子

### ②コンプライアンス・マニュアルの作成と配付

社員一人ひとりがどのように行動すべきかを「コンプライアンス・マニュアル」にわかりやすくまとめ、ファイルや手帳、小冊子などの形で全員に配付しています。また、内容については、コンプライアンス委員会事務局が中心となり、適時見直しを行っています。



コンプライアンス・マニュアル

## 3. 危機管理体制

### ①平時の対応

職場を総点検しリスクを洗い出すことで、優先順位をつけながらリスクの防止・軽減活動を進めています。このような活動は毎年繰り返し行い、その活動結果はコンプライアンス委員会で報告されています。活動の見直しを行いながら、さらにレベルアップした活動につなげていきます。

### ②事業継続計画 (BCP)

大規模地震の発生を想定し、被害想定に基づいた対策（外部データセンターの活用ほか）を講じるなど、事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan) を策定しています。今後は、想定リスクや対象拠点を拡大して、引き続き取り組んでいきます。

### ③緊急時の対応

人命・身体に危険が及ぶおそれのある事態、企業の信用や資産に重大な影響が及ぶおそれのある事態など、緊急事態が発生した場合は、「緊急時対応マニュアル」に基づいた体制をとります。各部署はただちに連携し、緊急対策本部を設置するとともに、迅速かつ的確に対応します。

## 4. ヘルプラインの設置

TaKaRaグループでは、法令違反や不正行為などを発見した場合、ただちに上司に伝え職場内で解決することを基本としています。しかし、それがうまくできない場合のために、社員からの相談や通報を受け付ける「ヘルプライン」を、社内 (CSR推進部) および社外 (第三者機関) に設けています。

ヘルプラインは、「公益通報者保護法」および「ヘルプライン規程」に基づいて、相談者の匿名性・プライバシーを守り、相談したことで不利益な取り扱いを受けることがないように運用されています。寄せられた相談に対しては、秘密保持について十分に配慮した上で調査を行い、確認された事実関係に基づき適切に対応しています。さらに、対応した結果を相談者に報告しています。

## 株主・投資家との信頼関係構築のために

宝ホールディングスは上場企業として、株主および投資家の皆様に正確かつタイムリーな情報開示を行うための社内体制を整え、経営の透明性を維持しています。また、株主の皆様への利益還元については、第7次中期経営計画の中で次のような明確な株主還元方針を定めています。

●株主還元総額:3カ年累計100億円以上の実施

●株主還元性向(※1):下限値50%の設定

(※1) 算出方法…株主還元性向=株主還元総額(配当総額+自己株式取得額)  
÷みなし連結当期純利益(※2) ≥ 50%

(※2) みなし連結当期純利益=(連結経常利益-受取利息・配当金+支払利息)  
×(1-法定実効税率)



# 宝酒造のあゆみと社会・環境活動の歴史

## 会社・商品の歴史



1842

1950

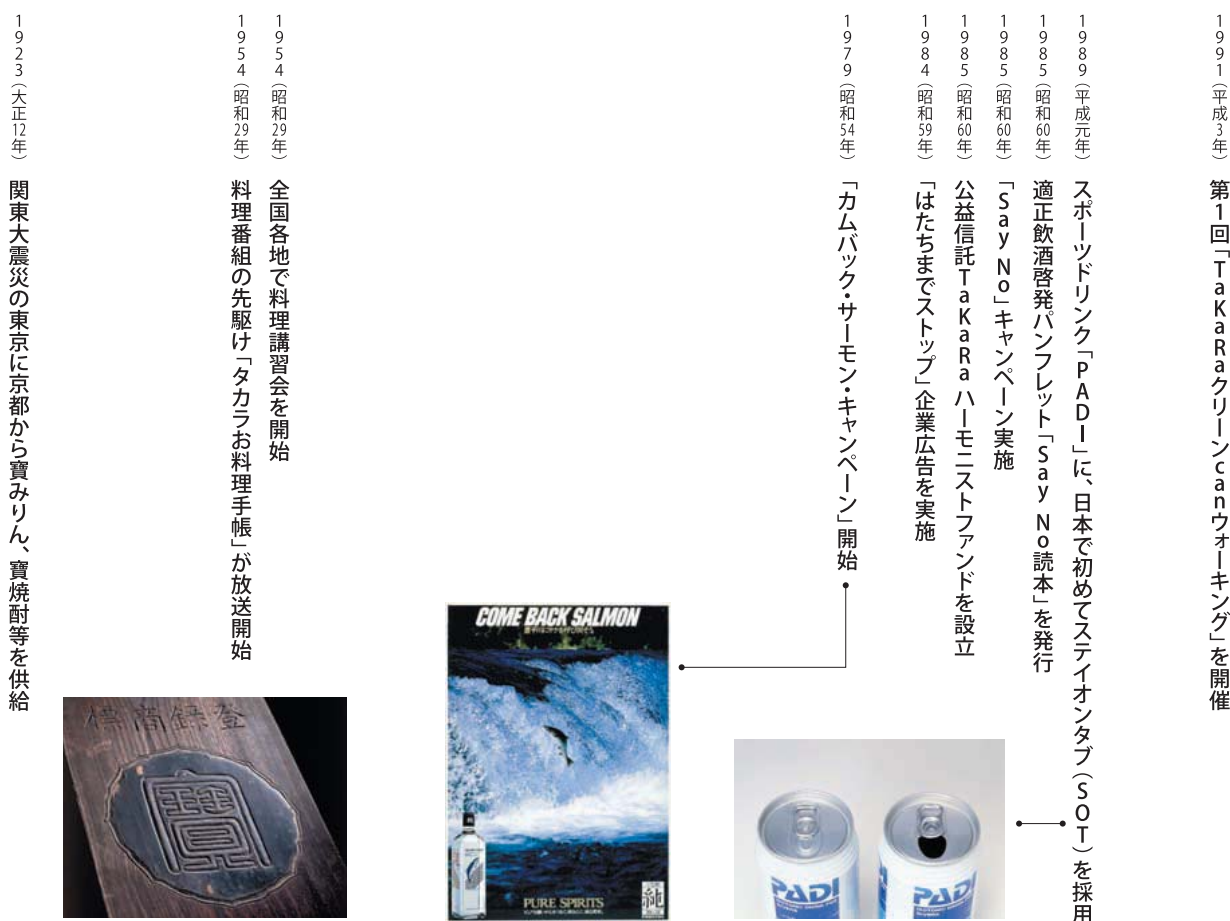
1960

1970

1980

1990

## 社会・環境活動の歴史





フランスのフーデックス社の株式を取得  
2010 (平成22年)

松竹梅「白壁蔵」(生酛純米) 発売  
2008 (平成20年)

本格焼酎「知心剣」発売  
2008 (平成20年)

タカラCANチューハイ「直搾り」発売  
2007 (平成19年)

TaKaRa「焼酎ハイボール」発売  
2006 (平成18年)

宝ヘルスケア株式会社設立  
2006 (平成18年)

コンプライアンス推進室を設置  
2004 (平成16年)

松竹梅「天」発売  
2003 (平成15年)

TaKaRaグループ持株会社体制へ移行  
2002 (平成14年)

全量芋焼酎「刻者」発売  
2001 (平成13年)

「白壁蔵」完成  
2001 (平成13年)

企業理念の改定および行動規程の制定  
2001 (平成13年)

タカラ有機本みりん発売  
2000 (平成12年)

品質保証部を設置  
2000 (平成12年)

全工場でISO9002認証取得完了  
2000 (平成12年)

お客様相談室を設置  
1996 (平成8年)

本格米焼酎「よかいち」全国発売  
1994 (平成6年)

環境・広報室を設置  
1994 (平成6年)

2000

2010

「お酒おつきあい読本」発行  
2009 (平成21年)

「TaKaRa田んぼの学校」開始  
2008 (平成20年)

お客様相談室のホームページ開設  
2006 (平成18年)

「緑字企業報告書」初刊発行  
2005 (平成17年)

17事業場でISO14001統合認証を取得  
2005 (平成17年)

妊産婦飲酒の注意表示実施  
2004 (平成16年)

「TaKaRaお米とお酒の学校」開始  
2004 (平成16年)

環境教育教材「リサイクルロード」発刊  
2004 (平成16年)

各地自然災害被災地でボランティア活動実施  
2004 (平成16年)

阿武隈川きらさらキャンペーンに協賛  
2003 (平成15年)

ベロタクシーへの協賛開始  
2002 (平成14年)

地球環境大賞「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」受賞  
2000 (平成12年)

環境活動の基本理念制定  
1999 (平成11年)

タカラ本みりん「醇良」にはずせるキャップを採用  
1999 (平成11年)

「緑字決算報告書」初刊発行  
1998 (平成10年)

焼酎のほかり売り開始  
1998 (平成10年)

全社環境対策プロジェクト「エコチャレンジ21」開始  
1997 (平成9年)

商品に点字で「おさけ」表示を開始  
1995 (平成7年)

未成年者飲酒、飲酒運転の注意表示を開始  
1995 (平成7年)

阪神・淡路大震災で支援ボランティアスタッフを派遣  
1995 (平成7年)

四万十川の清流を守るキャンペーン開始  
1994 (平成6年)

北海道で宝焼酎「純」、純レジェンドのリターンボトル化開始  
1994 (平成6年)



HP I:TaKaRaのあゆみ

# 「緑字企業報告書 2010」に対する意見

関西学院大学商学部教授

阪 智香 (さか ちか)

日本学術会議連携会員

日本社会関連会計学会理事

大阪府環境審議会委員



### ■はじめに

緑字企業報告書2010では、トップメッセージ、事業の概要、特集に続いて、ステークホルダー別に、環境活動、社会活動、従業員関連、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスについての活動の的確な要約と実績が記載されています。宝酒造の企業理念に基づく活動の特徴がよく出ており、親しみやすく読みやすい構成であるとともに、誠実な活動内容が伝わる報告書であると思います。

とりわけ、1998年に最初の報告書を公表されてから、継続して算定されている緑字決算は、各年度の宝酒造の環境・社会活動への取り組みの総括ともいえます。緑字決算を通して、目標のレベルアップとその達成に継続して取り組み、毎年の成果を具体的な数値として公表し、さらに次の取り組みにつなげる仕組みは、活動をより一層積極的で確実なものにする原動力となっていると推察されます。

### ■内容について

#### ●長期的なビジョンについて

企業理念・行動規準と3カ年の環境中期目標が、とてもわかりやすく示されています。一方で、特に環境問題などは長期的な目標からバックカスティングしていくことも大事ですが、長期目標が報告書に示されていないために、長期的な視点からの方向性が見えにくくなっています。

中期目標の基になる長期目標や、中期目標についてはISO14001環境目標以外の社会・社員・企業体制に関する包括的な目標も併せて示してもらえたなら、「企業理念→行動規準→方針→長期目標→中期目標」へと具体的な目標にどのように落としこまれているか、実績と対比による現状の位置が理解できるようになるのではないのでしょうか。また、今回の特集で取り上げられた「安全・安心」や「生物多様性」が、長期目標や中期目標ではどのように位置づけられているかも、見えるようになると思います。

さらに、環境目標が事業プロセスにどのように統合され

ているかについても知りたいと思います。活動が一定のレベルに達した後、そこからさらに進展させるためには、これまでとは違った工夫も必要になってくるでしょう。例えば、環境負荷削減と設備投資等のコスト増のトレードオフをどのように解決するかといったときに、適切なコスト・ベネフィット分析が必要となるでしょう。

#### ●特集について

特集やトピックスは毎年変更するなどの工夫がなされています。今回の特集のうち、生物多様性は、根気強く継続して取り組まなければならない課題です。生物多様性はここ数年で注目されてきましたが、宝酒造では、TaKaRaハーモニストファンドを通じて25年にもわたってのべ260件の研究と活動に助成をされています。その地道な取り組みとこれまでの成果の蓄積は、社会的な財産であると思います。

#### ●環境について

環境方針・環境マネジメント、緑字決算、環境目標、4Rについての記載を通じて、宝酒造の環境活動の全体像と重点を知ることができます。緑字決算の項目や目標は、全社的なISO14001環境目標とリンクしており、項目やECO算定の基になる目標値は、3年ごとに見直しがなされています。最近では、CSR関連項目が追加されているのが特徴です。そして、毎年の達成状況を基に、中期計画の途中であってもハードルをさらに高くするなど、可能な限りレベルアップさせた取り組みが実施されています。また、緑字決算の重み付け係数が社外の1万名のアンケートにより決定されることによって、環境活動の中に社外のステークホルダーの声を反映し、環境活動の適切な方向付けがなされていると思います。

#### ●社会について

社会活動のひとつとして実施され、また、CSR報告書に名称が変わってから毎年表紙に掲載されている「TaKaRa 田ん



ぼの学校」での、子供たちのいきいきとした笑顔がとても印象的です。社会の「宝」である子供たちに、単なる農作業体験ではなく、自然の恵みや生物多様性を肌で感じる「教育」を提供されていることを、素直にうれしく思います。

## ●その他

各年の緑字企業報告書にすべてを求めることは適切ではありませんが、過去の報告書にも記載のあった海外事業における取り組みを含む宝グループの取り組みについての全体像に関する情報開示があれば、読者に活動の全体を知ってもらうことができ、より包括的な報告となるのではと思います。

## ■最後に

会計や決算の数値は、私たちの豊かさの指標として、現実世界のさまざまな意思決定や資源配分に用いられています。しかし、私たちの豊かさには直結するはずの「環境」が経済システムから切り捨てられてきたために、利益の追求が環境問題を生み、ひいては人間の生存基盤そのものが危機にさらされようとしています。このような、従来の会計に対する挑戦のひとつが宝酒造の緑字決算であると思います。

企業活動の指針として、アニュアルレポート上の利益(ボトムライン)とともに、社会・環境活動への取り組みの成果を総合的に示す緑字決算(もうひとつのボトムライン)をもつことで、経済・社会・環境にバランスよく配慮することができ、従来の企業行動や経済活動の方向性を変える力をもちます。1998年から継続されている緑字決算が今後も継続されるようエールを送るとともに、宝酒造の一滴(取り組み)の波紋が広がるように、他の企業においても、新たなボトムラインを探る動きや持続可能な経営へのシフトを呼び起こすことにつながればと願っています。

## 表紙について

この写真は、当社の主催する社会・環境プログラム「TaKaRa田んぼの学校」〈草取り編〉で撮影されたもので、参加された皆様が草取りを体験しているところです。私たちは、このいきいきとした表情から、「皆様のいきいきを実現する企業」であり続けたいと願う当社の想いがより伝わると考え、表紙写真に選定しました。



## 編集後記

本報告書では、一企業市民として、社会のさまざまなステークホルダーの皆様との関わりをご報告しています。本年度は特に、次の2つのテーマについて、特集でご紹介しました。

一つめは、「食の安全・安心への取り組み」を特集テーマに選びました。これは2010年3月に一般の皆様及び当社社員に対して実施したアンケート調査(有効回答数756件)の中の設問「特集記事として取り上げて欲しい項目」(複数回答)で、全体の約6割と最も要望が多かったためです。

二つめは「生物多様性保全への取り組み」です。今年度が生物多様性年であり、2010年10月には生物多様性に関する国際会議(COP10)が名古屋で開催されることから、生物多様性保全に関する皆様の関心が高まるものと考え、このテーマを選びました。

また、昨年の報告書の第三者意見でいただきましたご意見を参考に、お客様相談室に寄せられるご意見の内容や、それがその後どのような改善に結びついたのかという具体的な事例を新たに紹介するなど、報告内容の改善に努めました。

今後もあり有効かつ有意義な活動の展開をめざすため、皆様方からの当社の企業活動、環境活動に対するご意見をお待ちしております。よろしくお願い申し上げます。

## 編集体制

- ・環境統括会議(宝ホールディングス(株)・宝酒造(株)役員、グループ会社社長 計13名)
- ・編集委員会(CSR推進部門、広報部門、経営企画部門、総務人事部門、営業部門、商品開発・宣伝部門、購買・製造部門、品質保証部門、お客様相談部門、環境部門、宝ホールディングス(株)IR部門 計14名)
- ・編集責任者:中尾 雅幸(環境課長)

発行責任者:佐藤 浩史(環境広報部長)

●お問い合わせ先

## 宝酒造株式会社

環境広報部 〒600-8688 京都市下京区四条通烏丸東入 TEL:075-241-5186 FAX:075-241-5126



この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・  
水なしオフセット印刷で制作しています。